

治罪法全訓集 第五卷

同法省記錄文庫
保
第五百七十
十冊
號

第 第 第
一 一 五
架 架 號
六

司法省
第一九號
寄贈圖書文庫

司法省記錄文庫
第一
一
號

XB 620
T 6
8 e



XB 620	
T	6
8	e

犯罪ノ捜査起訴及豫審

第一章 捜査

第一節 告發

第二節 現行犯罪

第二章 起訴

第一節 檢察官ノ起訴

第二節 民事原告人ノ起訴

治罪法令訓集 第三編 一

○非現行犯トモ捜査ノ処分中檢事又
 司法警察官ヨリ
 報告唇ヲ以テ証人
 ノ呼出シ其供述ヲ
 聴クヲ得サルニ
 被告訴人トモ
 事件ニ付テ亦全
 シ但其為メ起訴
 處分ヲ遅延スヘカ
 ラス

○犯罪ヲ自首スルモ
 現行犯ニ準シ処分
 スル限ニテモ賭博
 非現行犯ハ自首ス
 ルモ罪ノ向ハス

米澤支廳詰檢事十四年十月十六日同 治罪法第九十二条ノ規

則ニ從テ現行犯ヲ除クノ外告訴發其他犯罪ヲ搜

査スルニ諛リ不得上場合ニ於テハ合狀外ノ呼出狀

ヲ以テ被告人又ハ証人等ヲ召喚シ其陳述ヲ聞取可

然哉 指令 伺 趣非現行犯トモ捜査ノ處分中

檢事又ハ司法警察官ヨリ報告唇ヲ以テ証人ヲ呼出

シ其供述ヲ聴クヲ得サルニ非ヌ被告人トモ輕

易ナル事件ニ付テハ亦全シ但其供述ヲ聴ク為メ起

訴ノ処分ヲ遅延スヘカラス

松山始審廳檢事十五年一月十日同 犯罪ヲ自首スル者アラハ

總テ現行犯ニ準シ處分スヘキ哉果シテ然ラハ賭博

非現行犯ノ如キモ亦其罪ヲ治スル儀ト心得可然哉

指令 犯罪ヲ自首スルトテ現行犯ニ準シ処分スル

第三章 捜査

第一章 捜査

第九十二条 檢察官ハ後

ニ記載シタル告訴發

現行犯其他ノ原由ニ因

リ犯罪アルヲ認知シ

又ハ犯罪アリト思料シ

タル時ハ其証憑及ヒ犯

人ヲ捜査シ第百七条以

下ノ規則ニ從テ起訴ノ

手續ヲ為ス可シ

犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 第九十二条

丙第七号 本省達

十四年四月廿三日

○非現行犯自首條
 此件ハ非現行犯ノ處
 分ニ屬ス

○放火及ヒ盜難等屆
 出ル中ハ被告ノ誰某
 名ノ分明セザルモ第
 九十二條ノ規則ニ從
 ヒ捜査ヲ終リタル後
 第百七條以下ノ規則
 ニ依リ起訴ノ處分ヲ
 為ス

ノ限ニテラス賭博非現行犯ハ自首スルモ罪ヲ問ハ
 事主ノ有無ニ因テ賍
 物ヲ區処スル儀ニ付旧
 兵庫縣大書記官原

愛媛縣十五年一月十日同重輕罪違發罪モ非現行ノ自首ス
 兵庫縣大書記官原

ル者アル中ハ與論現行犯ノ取扱ヲ為スヘキヤ直ニ
 保右郎ヨリ甲号ノ通

御指令アリタシ 指令 非現行犯ノ自首ニ係ル件
 伺出候ニ付乙号ノ通

ハ非現行犯ノ処分ニ屬スヘキ者トス電報
 太政官ハ相伺候処丙

静岡始審廳檢事十五年一月十三日付從來被害者ヨリ訴出ス
 号ノ通御教令相成

ル所ノ放火及ヒ盜難屆等ノ類モ則犯罪ノ報知ナリ
 候余為心得此旨相

是等モ治罪法第三編第一節中ニ列記アル告訴ト全
 達候事

レク被告人誰某タルト分明セザルモ唯其事件ニ對
 丙号

ニ豫審ヲ求ムルハ勿論ナルヤ 指令 治罪法第九
 伺ノ趣ハ三年ヲ經テ

十二條ノ規則ニ從ヒ捜査ヲ終リタル後第百七條以
 仍ホ事主知レテハ

下ノ規則ニ依リ起訴ノ處分ヲ為スヘシ
 官没スヘシ

熊本縣警部十四年六月實同
 同 年 同 月 廿 六 日 回 答

第五條 司法警察官ハ非現行ノ被告
 物件及久シキ難堪

人ヲ審問スル權ナキハ無論ナレモ治罪
 モノハ時限ニ拘ハラズ

法第九十二條捜査ノ場合現行犯ニ於
 公賣ニ其代金ヲ領

テハ被告人ト思料スヘキモ証徴ヲ
 單スルヲ得

具備スル為リ自己又ハ巡查ニ命ジ
 俱罪証ニ必要ナラサル

應本人ニ就キ其申立脅ヲ徴スルハ
 不苦哉

回答

第五條 治罪法第九十二條ハ檢察官
 職務ヲ掲ケタルモノニシテ司法警

察官ノ非現行犯ヲ処分スルハ第九
 十三條ニ依ル可キト考量ス

十三條ニ依ル可キト考量ス

司法警察官

松江裁判所檢事

十四年十二月廿四日
十五年一月廿七日

野波庄助

右ノ者明治十三年一月盜賊窩主及ヒ
故買ノ義ヨ自首シ其取調中入水死
亡致シタル者ニ候処其故買品ノ内
事主不分明ノ品拾点有之且ツ其
後盜犯ト認ムル者ハ踪跡無之ニ
付兼テ御議定有之期限経過ノ末
ハ没収ノ処分可相成届ト心得其処
分方ノ為メ別紙第一号ヨリ第六号
ニテノ通松江裁判所判事ハ往復候ハ
共同判事ニ於テ処分難致旨ヲ以テ再
應返戻有之此末処分方差支候間

至急何分ノ御指揮相成度此段奉伺候也

右番案スルニ事主ノ分明ナラサル物品
ハ賍物タリト雖モ犯罪取調上不用ニ
属シタル上ハ行政上ノ処分ニ委子警察
察官ニ於テ処分セシムルコト至當ナリ
ト考量ス因テ左ノ通

指令

伺ノ趣十四年當省チ七号達ハ現時受
居ル官ノ手ニテ処分スルヤ趣旨ナリト雖
モ新法実施後ニ至リ本件ノ如キハ警察
官ニ交付シ行政上ノ処分ニ委子ル儀
ト心得可シ

青森縣警部

十五年三月二日
全 年 令 月 日 回 答

第二條 被害者被告人共不明ナル賊ノ
置捨物品檢事代理警部ニ於テ発見シ
犯罪ノ端緒ト見認ノリル節ハ直ニ
豫審判事ニ送致スヘキヤ將シ輕罪
裁判所檢事ノ午リ經由スヘキヤ

回答

第二條 明治十四年當省丙ガ七号達ニ
依リ処分ニ及ヒ然ルヘシ

平輕罪裁判所檢事十五年一月廿日付
十五年二月六日付

犯罪ニ關セサル変死人（變死又ハ行倒人等ヲ
云フ）

檢視ノ儀ハ行政官檢視処分ノ者ニシ
テ司法警察官ニ於テハ一切干涉セサル
者ト相心得罷在候処明治十三年十

二月福島縣伺ニ変死人ノ訴アルハ司法
警察官ヲシテ檢視セシムル義ト心得
ハキ旨御指令アリ右御指令ニ依レハ
変死人檢視ハ犯罪ノ有無ニ關セス司
法警察官ニ於テ処分可致者ニテ大
ニ疑義ヲ生シ奉伺候

右審案スルニ犯罪ニ關セサル変死人ノ
檢視ハ行政上ノ処分ニ屬シ司法警察
ノ処分ニ屬セサルナリ然ルニ明治十四
年一月十五日別紙ノ通（變死ノ訴アルハ
司法警察官ヲシ
テ檢視セシムル義ト心得ヘシ）

福島縣ハ御指令相成居候ニ付右
御指令改正案及ヒ本件御指令

案ヲ草ニ仰高裁候

本件指令

伺ノ趣犯罪ニ関セサル変死人ノ檢視ハ
行政ノ処分ニ屬ス

但ニ明治十四年一月十五日付福島

縣ノ指令ハ改正候事

改正指令

福島縣

変死人檢視ノ儀ニ付明治十四年一月

十五日付リ以テ及指令置候処犯罪ニ

関セサル変死人ノ檢視ハ行政ノ処

分ニ屬スヘキ儀ト改正候条此上日

相達候事

茨城縣十五年二月付
全年月廿日付

第四條 茲ニ甲其盜難ニ罹リ若干ノ

物品ヲ竊取セラレタルモノアリ其犯

罪タルヤ何人ノ所為ナルヤヲ知ル能

ハス然ルニ該物品公高ナル乙丙ヲ

輾轉ニテ丁某ノ手ニ在ルヲ撞見シ

被害者即甲某ヨリ其盜贓タルヲ

証明シ来ルモ右ハ被害者ヨリ民事

裁判所ハ詞訟ヲ起スニ止ニリ犯罪

捜査ノ為メ該物品ヲ差押フコトヲ得

サル義ト相心得可然哉

右審案候処犯罪捜査ノ為メ被害

者ニ屬スル物品ヲ差押フコトヲ得ル

ヤノ儀ハ犯罪捜査ニ必要ニシテ下附
ス可カラサル者ハ係レハ之ヲ差押
フルヲ得ルモ若シ其模様ヲ記載
シ置犯罪捜査ニ差支ナキ者ハ此限
ニ在ラサル義ト考量候因テ左ノ
通御指令ニ及ハレ可然候哉

指令

亦四条犯罪捜査ノ為ニ必要ナル者ハ
之ヲ差押スルヲ得但し其模様ヲ記載シ
置キ捜査ニ差支ナキ者ハ此限ニ在
ラス

米子始審裁判所檢事 十五年二月六日請訓
全 年三月十日内訓

第七條 従来人民ヨリ警察署ハ差出シ来

候盜難届ハ犯罪捜査ニ必用ノ者ニ付時々警
察官ヨリ回送セシメ可然哉

右審案スルニ亦七条盜難届ハ一々警
察官ヨリ回送セシムルニ及ハストモ
此犯罪取調ノ為ニ必用ナリトスル時ハ
回送セシムルモ妨ナキ義ト考量
ス依テ左ノ通

内訓

亦七条 盜難届ハ一々回送セシムルニ
及ハストモ犯罪取調ノ為ニ必用ナリト
スル者ハ此限ニ在ラス

函館控訴裁判所檢事 十五年二月十八日付
全 年三月十日付

第一条 従来被害事件ニ付盜難届ト

称此一控ノ申告法有之然ルニ今ヤ治罪法
 中告訴法相定リタル上ハ右盜難届ハ自
 然ニ消滅セシカ如クナレバ抑盜難届
 ハ竊盜又ハ強盜等ニ遇ヒリル者ヲシ
 テ必ス警察署ニ届出シムル一ノ命令
 法ニシテ一般ノ取締ニ関シ即チ行政
 警察ノ範圍ニ屬シリルモノニシテ又
 且ツ便宜司法警察上犯罪捜査ノ資
 料ニ供シタルモノナレバ告訴ノ如キ本人
 人ノ意ニ任シ被害事件ヲ訴告スルニ止
 リ必シモ盜難届ノ如ク申報ノ責任ヲ有
 セサル者トハ其性質自ラ同シカラサル
 ニ付盜難届ト告訴トハ矢張並ニ行ハレ

テ相悖ラナル儀相心得可然哉

右審察候処第一條盜難届ハ告訴
 ト並ニ行ハルニヤノ件右ハ治罪法ニ
 告訴告発ノ件ヲ設ケラレモ盜
 難届ナル者ハ廢セラレタル者ニ
 非ス告訴ト並ニ行ル可キ者ト考
 量候因テ左ノ通

指令

伺ノ通

内務省

十五年二月廿八日照會
 全 年三月廿八日

賊ノ捨置品処分方ノ儀ニ付別紙ノ
 通滋賀縣ヨリ伺出候処右ハ盜犯
 逃亡ニシタル場合ニ於テハ其物品ニ

ヲ以テ告発スル儀ハ無之ト存候ニ付
該物品ハ通常賊ノ捨置品トシテ
警察署ニ領置ニ一年ヲ経テ得者
ニ給付スルハ事甚臆当ナル可シ就
テハ左ノ通可及指令相考候得共
御者ニ於テ他ニ差兩有之モ難測
依テ一應及御照會候条至急御
田答相成度候也

滋賀縣ハ指令之案

伺ノ趣左ノ通心得ハシ
亦一条賊ノ捨置品タルノ判明ナレハ
十二年三月當省番外達ニ扱ルハシ
其他伺ノ通

但盜犯逃走シタル後其捨置品ノ
ミヨ檢事ハ送付スル儀ハ無之候
事
亦二条 前条俱存ノ通ニ付警察官
ニ於テ都テ処分スルハシ尤一年間領
置ノ後事主ナケレハ官没スルハシ
別紙

盜賊捨置品処分方同

亦一条 盜賊捨置品其他処分方儀
明治十二年三月十四日付御省番外御
達ニヨリ警察署ニ於テ一年間領置
事主ナキ時ハ得者被換者又ハ店
主等ニ給與ニ未レリ然ルニ其物品

賊ノ捨置品又ハ犯所ニ取落シ置リ
物件ヲルレ相違ナシト思料スルハ
其物品ヲ添ヘ直々ニ檢事ヘ告発スル
勿論ノ儀ナレ果ニテ賊ノ捨置品ナ
ル乎又ハ通常遺失物ニ係ルカ其区域
判明セサル場合ニ於テハ從前ノ通警
察署ニテ一年間領置ノ上物主ナキ時
ハ得者ヘ給與スヘキ乎

亦ニ条 賊ノ捨置品ニシテ贋品又ハ犯
罪ノ際其物品ヲ檢事ヘ送致ニシル
後一年間ヲ経レトモ其犯人捕ニ就
サレ節ハ幾年ニテモ犯人就縛候迄
其儘差置ヘキ儀ニ候哉又ハ一年間

ヲ経ルノ右豫審判事又ハ檢事ニ於テ
尚未犯人ヲ就縛豫期スヘカラサルモ
ノト見込場合ニ於テハ給與又ハ公賣
等ノ処分ハ從前ノ通警察署ニ於テ
ナレ可キ儀乎果ニテ然ラハ檢事ヨ
リ其都度返還ヲ受ケ処分スヘキ儀
ニ候乎
右取扱方疑義ヲ生シ候間相伺候条至
急御指揮有之度候也

明治十四年十二月廿八日

滋賀縣令龍平田安定代理

滋賀縣大書記官河田景福

内務卿山田顕義殿

内務省へ照會 十四年三月六日

本年二月廿八日附リ以テ御照會相成候盜犯ノ捨置品処分方ニ付滋賀縣伺文中并ニ御指令文中明治十二年三月御者番外達云々ト有之候処右番外御達ハ如何ナル者ニ候哉承知致度候ニ付至急御連ニ有之度此段及御照會候也

内務省ヨリ回答 十五年三月十三日

滋賀縣伺盜賊捨置品処分方文中十二年三月當省番外達ノ儀御照會ノ趣了承即チ別紙ノ通ニ有之候条此段御了知相成度及御回答候也
追テ本件ハ可成至急ニ御回答相成度候也

別紙

番外

從來盜賊捨置品等処分方區々相成候処自今別項ニ準ニ処分スヘシ為心得此旨相達候事

但從前指令致シ置候内本文ト抵觸スル分ハ取消候事

明治十二年三月十四日 内務卿

別項

- 一 賊ノ捨置品ニシテ一年間事主ナキ者ハ得者ニ給付スヘシ
- 一 止宿人旅篋貨物ヲ拂ハス逃去リル跡ニ殘シ置ク物品及ヒ湯屋等ニテ換易セ

ラレタル品ニシテ一年間事主知レサル者
店主並ニ被換者ハ給付スヘシ

右審按スルニ假令犯罪者逃亡シタル
場合ト金起訴ノ午続ヲ為シ然ル可

シ且又盜犯ノ捨置品ニ係リ發言察官

ニ於テ犯罪アリト思料スル者ノ如キ

ハ尋常遺失物ト全様取扱フヘキ者

ニアラス然ルニ之ニ拘ハラヌ十二年

三月内務省番外達ニ依ル可シト為

スハ不都合ナリト考量候ニ付左ノ

通御四答相成可然乎

内務省ヘ回答

本年二月廿八日付ヲ以テ滋賀縣伺盜犯捨

置品処分方ノ儀ハ盜犯逃走シタル場合

ニ於テハ其物品ノミヲ以テ告発スル儀ハ

無之ニ付該物品ハ通常賊ノ捨置品ト

シテ發言察署ニ領置シ一年ヲ経テ得者

ニ給付云々御照會ノ趣致兼知候右ハ

盜犯逃亡シタル場合ト金起訴犯罪ト思

料スル時ハ告発等ノ午続ヲ為ササルハ

カラス殊ニ盜犯ノ捨置品若クハ犯罪

ノ用ニ供シタル物件ハ尋常遺失物トハ

同視シ難シ尤通常ノ捨置品ナルカ將ク

贓品ナル乎分明ナラサル場合ノ如キハ

十二年三月御省番外達ノ通一年間領

置ノ上物主ナキ時ハ得者ニ給與ス可

キ者ト相考候因テ左ノ通御指令相成度
此段及御回答候也

滋賀縣ノ御指令案

第一条 犯罪ノ証憑トナラザル物品ハ同ノ通

第二条 犯罪ノ証憑トナラザル物品ハ檢事

ハ送致シ其公訴期滿免除ノ期限ヲ経過

シタル後檢事ヨリ返還ヲ受ケ給與等

処分ヲ為ス可シ

一宮治安裁判所判事十五年三月十日
全 年四月十日付

当一宮治安裁判所管轄内ニ於テハ木

曾川出水ノ節ニ漂流材ヲ拾ヒ得テ

隠匿スル者徃々有之其事発覺ス

ルニ及ヒ贓材トシテ事主不明ノ分

ハ乃々犯罪ニ因テ得タル物件ニ付刑法

第四十四条中所有主ナキノ明文ニ依リ

直々ニ没收ニ公賣ノ手續ヲ以テ其代

金ヲ當裁判所ニ領收シ可然乎然ル

ニ他ノ法律規則ヲ参考スルハ從來木

曾川漂流材ノ如キハ遺失物規則ニ

依リ一年間ヲ待テ処分ス可キ物件ナル

ヲ以テ一旦隠匿ノ罪名ヲ帶フト其

本質ハ遺失ニ屬スルハキニ付没收モ亦

ク一年ノ期ヲ待ツハキニ付可然乎若シ此

ノ如クナレハ其時向ハ所在ノ戸長等ニ

保管セシメテ揭示ハ地方警察官ニ囑託ス

ハキ乎

又ハ惟リ當裁判所内外ニ而已揭示ニ可然
乎

但若シ時月ヲ章子保管セシムレハ所在ノ
堤岸ニ露積シ良材必ス朽腐ニ至ル
可キ、付其揭示ハ明治八年亦六十
六号公布内国船難破及ヒ漂流物
取扱規則ヲ三十条ニ照準シ事終
覽以後凡ソ六十日間ヲ期トシ尚ホ
事主知レサレハ明治十四年丙亦七号
ヲ以テ御達ノ御裁令但各ニ遵ヒ公賣
シテ右代金ヲ裁判所ニ領置シ事主
ノ請求ヲ待テ其代金ヲ還付シ滿一年
ノ後々正ニ官没ニ歸スレハ有用ノ

良材ヲ以テ徒ラニ無用トナスニ至ラス
並ヒニ所在ノ戸長等ニ於テモ保管ノ
煩ヒヲ免カレ公私同便乎ニモ竊安住
候

指令

伺ノ趣駐札ノ儀ハ行政ノ処分ニ任スヘ
キモノニ付警察官ハ引渡スヘキモノ
ト心得ヘシ

水戸始審裁判所檢事補十五年三月廿三日請訓
全四年四月十日由訓

ヲ十條 治罪法亦九十三條ニ告訴ヲ

為スノ明文アリ然ルニ茫乎トシテ

其犯人ノ誰タルヲ知ラス何月何日

盜竊ニ罹レリト為シ其届出所謂
盜難

届ト題スル者ヲ為ス者ノ如キハ告訴ト同
コリ之ヲ受理ニ依リ百七条ニ依リ豫
審ヲ求ムハキ乎

内訓

第十條 盜難届ハ告訴ト異ナレモ捜
査ヲ遂ケ豫審ヲ求ム可キ年掛リ
アル者ハ豫審ヲ求ム可シ

理由本条ノ件若シ唯シ盜難届ニ
止リ他ニ証憑ナキ者ハ豫審ヲ求
ム可キ事由ヨリ生セスト考量候

巖手縣同十五年三月廿三日
同四年四月十二日付

官林看守人ヨリ明治十四年八月中訴
出シタル要領ハ巡視中已レカ者守ス

ル官林ニ接スル民有山ニ於テ數多ノ木
材ヲ發見スルニ付其地主ニ告ケ共ニ
山中ヲ見廻ルニ民有山中ニハ更ニ伐
採ノ跡ナリ其所ヲ距ル僅數丁ノ官
林ニ於テ其木材ヲ出スハキ木數剪
伐シタルノ痕跡アリ而シテ他ヨリ運
搬シ得ハキ場所ニ非ス全リ盜伐
ニ罹リタルナラント依之吏員ヲ派遣
取調ル所果シテ其申立ノ如シ則盜
犯ノ所為ト認定警察官ヨリ檢事
ニ報告セリ然ルニ從來盜犯發覺
セサル處物処分モ亦裁判官ノ公訴
給没贖物条ニ依リ処分シ未候処

新法実施ニ際スト雖モ明治十四年十二月三十一日以前檢事ハ報告シテモ事件ハ明治十四年第八十二号公布ノ趣モ有之檢事ニ於テ起訴係セテ本柄ノ処分ヲ結了スヘキハ勿論ノ儀ト心得可然哉抑又官山盜伐ノ証佐ハ前陳ノ如リ且新法実施以前報告シタル事件ト雖モ私訴ナキレハ独リ返還ノ処分ヲ為スヘキ限ニ無之哉疑義ヲ生候間至急御指令相成度此段相伺候也

指令

伺ノ趣犯罪ノ証憑トスルヲ要セサル物

件ハ其旨ヲ檢事ニ通知シ警察官ニ於テ直々ニ処分スヘシ

山形始審裁判所檢事十五年三月請訓
十四年四月十五日附訓

第一条 治罪法ヲ十四条ヲ以テ考フル

司法警察官盜難ノ告訴（從前ノ届各
ニテ其犯人
ノ誰ナルヲ知ラサルモ）ヲ受ケタル時ハ治罪

法ヲ九十三条ヲ四項ノ規則ニ從ヒ速

ニ檢事ニ送致シ檢事ハ一面直ニ司

法警察官ニ犯人搜索ヲ令シ一面

直ニ起訴ス可キモノト存候得共

亦同法ヲ九十二条ニ依レハ未タ犯人トシ

テ嫌疑スヘキ者ヲ知能ハサル場合ニ於

テハ其搜查ヲ尽シテ後々起訴スヘ

キカ如シ果モテ然ラハ捜査ヲ為スモ
半年又ハ一年ヲ経テ猶知ルニ由ナキ
時期限免除ヲ申出スル為リ起訴
ス可キモノニ可有之哉

内訓

第一条 盗難届ト告訴トハ自カラ別
ナルモノナリ然レモ其届ニ由リ捜査
ノ未検証ノ処分ヲ要スル場合ニ於テハ
豫審ヲ求ムルコトヲ得但シ相當ノ年続
ク要スルハキ事申シ生セサルニ準シ期滿
免除ノ期限ノ経過ヲ中断スルカ
為リノ処分ヲ為スニ及ハス

弘前始審裁判所檢事

十五年三月九日請訓
全 年四月十七日内訓

第一条 明治十二年三月内務省ヨリ番
外ヲ以テ賊ノ置捨品ニシテ一年間事
主ナキ者ハ得者ニ給付スヘリ又止宿
人旅籠料ヲ拂ハス逃走シタル跡ニ
残シ置物品及湯屋等ニテ換易セ
ラレタル品ニシテ一年間事主知レサル
者ハ店主兼ニ被換者ニ給付スヘキ
旨府縣ハ達ニ相成居候処右ハ刑
法治罪法ニ抵触ノ虞無之候間
新法実施後モ尚府縣ニ於テ取扱
候モリト心得可然哉

第二条 同上賊ノ置捨品ニシテ事主アル
時ハ事主ハ下付スルハ警察官ニ於テ

取計候筋ト心得可然哉

内訓

第一条亦二条見解ノ通但犯罪捜査ニ
必要ナル物件ハ期滿免除ニ至ル迄之ヲ
留置クテ得

第三条賊ノ置捨品ニモテ犯罪ノ用ニ
供セシタル跡ニ捨置アル鑿鋸ノ類ハ
刑法第四十四条ニ從ヒ犯人ノ所有ニ
係ルト否トヨリ没否ヲ區別スル旨
ニ候処若シ犯者ノ誰タルヲ知ル能ハ
ス隨テ此區別ノ知レサル時ハ何ノ法
律規則ニ從ヒ何所ニ於テ何様ノ処
分スル旨ニ候哉

第四条法律ニ於テ禁制ニタル物件ニ
モテ其事件赤リ罪トナラサル時例ハ
ハ偽造變造ニテ赤リ販賣セサル度
量衡ノ類ハ警察官ニ於テ没收スヘ
キ旨ト心得可然哉

第五条法律ニ於テ禁制ニタル物件
ニモテ其事件罪トナリタルモ犯者ノ
知レサル時ノ如キ場合ニ於テ之ヲ
没收スルハ裁判官ノ職務ト心得可
然哉

第三条亦四条亦五条 犯罪捜査ニ
必要ナル物件ヲ除クノ外然テ行政
警察官ノ処分ノ任スヘシ

新瀉縣十五年五月十九日請訓
全 年六月一日内訓

司法警察官ニ於テ告訴告發ヲ受ケ及
職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ現行犯
アルコトヲ知り又ハ之レヲ受取リタルキ
年続其他豫審判事ニ屬スル假処分
等ハ治罪法中明文アリト雖モ非現行
ノ罪犯アルコトヲ自カラ風評等ニ依リ聞
知モリルトキ取扱ノ明文ナキコトヲ
聊カ疑義ヲ生シ候条左ノ二条何分ノ
仰御内訓候也

第一条 司法警察官ニ於テ犯罪アルコ
トヲ聞知告知語若及ニ
現行犯ニアルスタルキハ則チ搜
索ニ着手シ果シテ相違ナキコトヲ証明

スルニ足ルノ探緒ヲ得ハ一件書類ヲ
檢事ニ送致シ可然哉

第二条 司法警察官ハ檢事ノ指
揮ヲ受ケサレハ直チニ搜索スルコ
トヲ得サルハ治罪法ノ原則ナルコトヲ以テ
前条ノ如キモ速カニ檢事ハ告
發スルハキ義ナル哉果シ然ラハ治
罪法第九十六条ニ拠リ可然哉

内訓

第一条 見解ノ通

宮城集治監十五年一月十二日
全 年八月十八日附電信

囚徒逃走ニ直ニ捕縛ニテサレハ
起訴ノ為ニ檢事ハ通シ檢事ニテ

捕縛ノ手續ヲナシ重罪ト雖モ
法知ハ捕縛ノ布達ヲ請フニ及ハ
サル儀ト心得テヨキヤ

右審案候処逃走ニシテ囚徒
捜査ニテ起訴スルハ檢察官
ノ職務ニ係ルヲ以テ假令重罪
ノ囚徒ト雖モ司獄官ヨリ別段
捕縛方ノ布告ヨ司法御ニ請フ
ニ及ハスト考量候因テ左ノ通

指令

逃走ニシテ囚徒ヲ捕縛スルノ件
伺ノ通

長崎上等裁判所檢事 十四年二月廿二日付
十五年三月十五日付

第五條 第二十二條豫審又ハ公判ニ付ス
ル前檢察官ニ於テ捜査中告訴告發
人等ヲ召喚スル場合ニ於テハ起訴
前ノ一ニ付必シモ本條ノ例ヲ用ヒス郵
便等ヲ以テ呼出ニ右費用ハ亦三百
七條二項ノ例ニ準シ官費相立可然
哉

指令

第五條 伺ノ通

理由檢察官犯罪ノ捜査ヲ為ス
ニ當リ告訴告發人等ヲ呼出ス
ハ通常ノ報知ニシテ令状ヲ發ス

ルト同視スハカラス成ルハ、部
便等尚便ナル方法ヲ用ヒ其費

用ハ官ニテ擔當スハキモ、トス

秋田始審裁判所検事十五年二月廿五日請訓
全 年三月廿四日内訓

第八條 治罪法第九十二條檢察官ハ

云々今茲ニ現行准現行犯ヲ除キ檢事

ニ告訴告発スルカ又ハ司法警察官

ヨリ告訴告発ヲ送付シ其唇類等

ヲ檢閲セシニ全ク証憑ナキトアラズ

ト金モ未ク不十分ナリト思料スル中

ハ直クニ被告人又ハ証人ヲ召喚シ

或ハ管内ト金モ遠隔ノ地ハ司法

警察官ニ移牒シ假リニ訊問ヲ

為サレ得サル場合アリ右等ノ手續
ヲ為スハ即チ第九十二條証憑及ヒ
犯人ヲ捜査云々ノ法文ニ合當ス
ル義ト心得可然ヤ

内訓

第八條 檢事ハ非現行犯ニ付テハ被

告人及ヒ証人ヲ訊問シ若クハ司法警

察官ニ其訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ

得ス但通知書ニ依リ出頭シタル

被告人及ヒ証人ノ申立ヲ聽クハ妨ケナシ

山田輕罪裁判所檢事十五年三月廿九日請訓
全 年四月十四日内訓

第一條 告訴ハ人民一個ノ權利ニシテ

法律ヲ以テ之ヲ限制スルコトヲ得サル

レ可ラサル義ト心得可然哉

右方一条ヲ審察スルニ違警罪ハ犯罪
中最微ナル者ニシテ隨テ其証憑モ亦
湮滅シ易ク殊ニ高船内犯罪ノ如キ
ハ其船中ニ於テ証憑ヲ聚集セサレハ
証人等諸方ニ散在シ實際ニ都合勘
ナカラサレ可シト虫モ客年才六十九号
布告ニ重罪輕罪トノミアリテ違警言
罪ノ明文ナキヲ以テ船長ヲシテ証憑等
取纏ノ処分ヲナサシムルコトヲ得ス然レモ
告訴ハ被害者固有ノ権ニ属スル者ナレ
ハ高船内ノ犯罪ナルモ其權利ヲ放棄
セシムルハ不都合ナル付請訓ノ通破泊

又ハ着港ノ地ニ告訴セシメ可然因テ左ノ通

内訓

第一条 見解ノ通

新泻縣警部

第八條 檢察官告訴告発ノ取調等
ニ付其告訴告発人ヲ呼出シタル時
若シ不参スル者アレハ之ヲ処置スル
ハ如何取扱可然哉

回答

第八條 檢察官告訴告発人ヲ呼出
シタル中不参スルモ現行犯ノ事件ニ付
正當ノ呼出状ヲ發シタル場合ノ外之ヲ
処罰スルコト得ス

告訴ノ拘ハラス盜
難届ヲ為サシムル
モ苦シカラス

滋賀縣 西曆十月十八日
徒前管下人民ノ盜難ニ罹ルルハ

第一節 告訴及

告發

其都度所管警察署へ為届出来候右ハ管内盜難ノ員
數ヲ詳悉シ将来豫防ノ策ヲ議スルノ用ニ供シ且之

第九十三條 何人ニ限ラ

レニ依リ犯人ヲ搜索スルノ端緒ヲ得候為メ為届出

ス重罪輕罪ニ因リ損害

候次第ニテ全ク被害人ノ告訴ト其性質全シカラス

ヲ受ケタル者ハ何罪ノ

治罪法實施ニ付若シ之ヲ被害人ノ告訴ト視ルルハ

地若クハ被告人所在ノ

治罪法第九十三條ニ依ラサルヲ得サル儀ニ候得共

地ノ豫審判事檢事又ハ

前頭ノ次第ニ付被害人ノ告訴ニ拘ハラス徒前ノ通

司法警察官ニ告訴スル

盜難ニ罹ルモノハ其都度所管警察署へ為届出不苦

トヲ得

候哉 指令 同ノ通

豫審判事告訴ヲ受ケタ

青森縣 西曆十月十日
檢察官告訴告發ヲ受ケタル後本

ル時ハ第百十四條以下

法第百七條末項ノ理由ニ
リ起訴ノ手續ヲ為サ

ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ

ル中ハ告訴人告發人ハ更ニ控訴裁判所檢事長ニ告

為ス可シ

告訴人告發人其下
等ナル裁判所檢察官
檢事長ニ進フモ更ニ
檢事長ニ告訴告發
スルヲ得

告訴及告發

第九十三條ノ一

同 法 八

警部代理 巡查
警部ト全等 権
有シ 告訴 告発 受
理ス

許告發スルヲ得ルノ明文無之ト虽モ第六十七条：
 因レハ 検事長ハ右告訴等ヲ更ニ受ケタル中ハ所属
 検事ヲシテ起訴セシムルノ職権有之ニ付告訴告發
 人ハ其下等ナル裁判所検察官ノ彙却ニ違フモ更ニ
 検事長ニ告訴告發スルヲ得ル乎 指令 伺ノ通
 茨城县古年十月十日付 巡查ヲシテ警部代理ヲ為サシメタ
 ル分署所在ノ地ト虽モ典論治罪法第六十条第二項
 ノ第四ニ補佐ノ明文記載アル上ハ戸長ヲ以テ其地
 ノ純然タル司法警察官トシ代理ヲ受ケタル巡查ハ
 戸長ヨリ囑托ヲ受ケ又ハ戸長不在ノ時ニ限り直ニ
 告訴告發ヲ受理スルモ戸長在邑ノ節ハ戸長ニ讓ラ
 サルヲ得サル儀ト相心得可然哉 指令 警部代理
 ノ巡查ハ警部ト全等ノ権ヲ有スル儀ト心得可シ

檢事告訴ヲ受ケタル時
 ハ第百七条ノ規則ニ從
 ヒ其処分ヲ為ス可シ
 司法警察官告訴ヲ受ケ
 タル時ハ速ニ其昏類ヲ
 檢事ニ送致ス可シ
 違警罪ニ付テハ犯罪ノ
 地ノ違警罪裁判所檢察
 官又ハ司法警察官ニ告
 訴スルヲ得其告訴ヲ
 受ケタル司法警察官ハ
 之ヲ違警罪裁判所檢察
 官ニ移ス可シ

司法警察官職務
外ト虽モ告訴告發受
ケハ重罪輕罪現
 行犯アルヲ知リタル中
 成ルヘク相當ノ処分ヲ為
 スヲ要ス

郡戸長告訴告發ヲ受
ケ不得止事故アル
 其地ノ警察署署長
 ニ囑託スルモ苦シカラス

郡書記ハ郡長不在ノ
 時ヲ除クノ外司法警

兵庫縣十四年十月十日付 司法警察官告訴告發ヲ受ケ又ハ
 現行ノ重罪輕罪アルヲ知リタル中犯所ニ臨檢ス
 ル等皆公務ヲ行フ場合ノミニヲ指ス儀ニ有之候哉
 指令 司法警察官ハ職務外ト虽モ告訴告發ヲ受ケ
 又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ知リタル中成ルヘ
 ク相當ノ処分ヲ為スヲ要ス

群馬縣古年十月十日付 郡長戸長ニ付テ告訴告發ヲ受ル
 ニ當リ猶豫シ難キ施政ノ事務アリ為メニ告訴告發
 ニ係ル調書ヲ作り其書類ヲ檢事ニ送致スル手續等
 ニ從事シ能ハサル中ハ其地ノ警察署署長へ一件囑
 託スルモ不苦哉 指令 伺ノ趣不得止事故アル中
 ハ囑託スルモ苦シカラス

群馬縣古年十月十五日付 郡長戸長ニ付テ告訴告發ヲ受ケ

告訴及ヒ告發 第九十三條ノ二

司法警察官

察事務ヲ代理スル
 得用掛準官吏
 非ハシテハ戸長不在
 時トモ代理スル
 得ス實際已ニ得ル
 場合ニ於テハ郡衙
 其地ノ警吏將夕郡衙
 所在地ニ警吏在勤
 ナキ時ハ最寄警察
 署ニ通報処分セムル
 可キトラス

又ハ罪犯引致ヲ受ルニ當リ郡長ハ郡書記戸長ハ用
 掛準官吏ニアラスヲシテ則チ司法警察事務ヲ代
 理為致候テ不都合典之裁將夕司法警察官補佐ノ事
 ヲ執ルハ郡長戸長ノ職ニ限ル儀ニテ全ク法律上警
 務ニ関スル職名ナキ者ヲシテ警務ヲ代理セシムル
 儀ハ不相成ト思量ス果シテ然ラハ如此場合ニ至リ
 テハ郡衙ヨリ其地ノ警吏將夕郡衙所在地ニ警吏在
 勤ナキカ如キハ最寄警察署ニ通報処分セシムル
 可然哉 指令 伺ノ趣郡書記ハ郡長不在ノ時ヲ除
 クノ外司法警察事務ヲ代理スルヲ得ス用掛リハ準
 官吏ニ非サルヲ以テ戸長不在ノ時ト雖モ代理スル
 ヲ得サルニ因リ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ未

司法警察官現行
 犯ニ非サレ令状ヲ發
 スル等ノ処分ヲ為ス
 可ラス

段伺ノ通取扱苦シカラサル儀ト心得ハレ

静岡縣始審廳檢事十四年十二月十七日同司法警察官告訴告

癸ヲ受ケ現行犯ノ場合ニ於テハ治罪法ノ規則ニ隨

豫審判事ニ屬スル處分ヲ為スヲ得ルト雖モ非現

行犯ニ係ルモノハ治罪法第九十三條第三項ニ依リ

一應ノ取調モ為サス直ニ其書類ヲ檢事ニ送致スル

ニ止ルモノ、如シ然スル中ハ幾干ノ時間ト日子ヲ

經過シ為メニ被告人失踪スル等及テ捜査困難ニ涉

リ且或ハ告訴ノ果効ヲ害スル一之レナキモ保難

シ依テ非現行犯ノ告訴告癸ニ係ルモ其事件ノ急速

ヲ要スルモノハ勿論被告人法律ニ觸ル、モノト思

料スル中ハ十四年太政官第四十六号布告ニ準據ニ

為取扱可然哉 指令 現行犯ノ場合ニアラサレハ

告訴及ニ告發 第九十三條之三

司法警察官

明治十四年第四十六号布告ニ據リ處分スルヲ得
但捜査ノ處分ハ書類ヲ送致スルニ止ラサル可

司法警察官告訴
告発ヲ受ケタル時
機ニ因リ面捜査ヲ
行ヒ一面其書類ヲ
檢事ニ送致ス

水戸裁判所檢事十四年五月七日訓示治罪法第九十三条第
九十七条ノ規則ニ依リ司法警察官告訴發事件ヲ
取捨スルノ權ヲ有セサルモ一應捜査ノ手續ヲ爲シ
タル後檢事ニ送致セシメ可然哉又ハ訴狀ノ取継ヲ
爲スニ止ルノ意歟 訓示 前段伺ノ通但時機ニ因
リ一面捜査ヲ行ヒ一面其書類ヲ檢事ニ送致スルヲ
得

熊本縣警部十四年六月廿八日訓示
第七條司法警察官中區長郡長
治安判事等現行犯ノ報知ヲ受ケ

臨場ニ又ハ告訴告発ヲ受ケ捜査
處分ニ取掛リシル後公務ノ都合
ヲ以テ警部ニ檢証又ハ捜査ノ處分
引讓ノ囑託ヲヤシタル節ハ警部
代テ其處分ヲ終ハ可然哉

回答

第七條御見込ノ通ハテ然ル可ニ但
ニ告訴告発ヲ受ケタルハ九十三
條ニ依ル可キト考量ス

高知裁判所長判事十四年五月十八日質問
第十條管轄地内ノ檢察官ニ於テ

告訴告発ヲ却下スルニ告者不服
ナルヲ以テ檢事長ニ申告シ更ニ

取調ヲ請求スル場合法章上ニ明文
ハ無之ト云仍ホ才六十七條亦三項
ノ職権内ニ含有スル義ニ付之ヲ採
聽ニ該檢察官カ却下シテ理否
ヲ檢向ニシ若シ受理スヘキ事件ト
思料スル時ハ更ニ該檢察官ニ
指揮ニ処分ヲ為ヤシム可然哉

回答

亦十條治罪法中檢事長告訴告
発ヲ受ケルノ明文無之ト云仍亦六
十七條ニ檢事長ハ其裁判所ノ管
轄地内ニ於テ輕罪裁判所檢事ニ
屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務

ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ
行ハシムルト得又起訴及ヒ其他
ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察
官ニ告達スルトマル可シト有之
以上ハ管轄地内ノ檢察官ニ於テ告
訴告発ヲ受ケ起訴ノ手續ヲ為サ
ル場合ニ於テ告訴告発者再ヒ之ヲ
檢事長ニ告訴告発スルハ檢事
長ハ一應受ケテ之ヲ檢案シ犯罪
アリヲ認知ス若シハ思料スルハ該
條ニ依テ之ヲ処分スルト當然ナ
ラン

青森縣警部
十四年十一月七日質問
十二月六日回答

青森縣警部

第一条 治罪法第六十条ニ記載スル官
 吏中郡区長又ハ警部アリサル地ノ
 戸長ハ平生其本務ニ執掌スル者
 ニシテ他ノ警察事務ニ行涉リ
 兼ヌルハ現行犯ノ告訴告発ア
 ル場合ヲ除キ他ノ告訴告発アリ
 タルハ事ノ緩急ニ隨ヒ其告
 訴ヲ受理セス最寄豫審判事
 検事警部ニ告訴スヘキ旨ヲ命
 スル事ヲ得ル也

右一条郡区長又ハ警部アリサル
 地ノ戸長カ告訴告発ヲ受理ス
 ルト如キハ本年卯四十四号布告

ハ福岡縣ノ
 有六条ノ趣旨
 違背罪ニ依
 一画ト改訂セラ

ニ所謂審判ノ南スル年続ト云フヘキモ
 ノニ非サルヲ以テ便宜ニ処分スルヲ得ス
 必ス之ヲ受理セサル可カラズ
 但現行犯ヲ逮捕シ又ハ受取リタル
 中ノ如キハ急速ノ処分ヲ行ヒ後
 警部ニ其処分ヲ囑託スルヲ得
 べし

回答

第一条 郡区長又ハ警部アリサル地ノ
 戸長ハ必ス告訴告発ヲ受理セサル可
 カラス

但現行犯ヲ逮捕シ又ハ受取リタル
 中ノ如キハ急速ノ処分ヲ行ヒ後

警部ニ其処分ヲ囑託スルヲ得ヘシ

熊谷裁判所検事補 十四年十二月廿七日付
十五年一月廿三日付

検事告訴ヲ受テテ起訴シ又ハ起訴セ

サル時ハ治罪法百八条ニ從ヒ其旨

ヲ被害者ニ通知シ豫審判事直々ニ

告訴告発ヲ受ケリルハ治罪法百

百十四条ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問

ニ若シ引續キ取調ヲ為ス可キ者ト

思料シテ時ハ其事件ヲ検事ニ送

致スルノ期交アルニ其事件豫審

判事ニ於テ法律ニ觸レサルモノ思

料ニシテモノハ直々ニ棄却スヘキカ

果シテ然ラハ検事ニ告訴シテ

モノハ必ス被害者ニ通知シ豫審判事

ニ告訴シテモノハ無罪ト思料シテ

ルハ被害者ニ通知スルニ否無

之同般ノ告訴ニシテ彼是庭徑スル

ノ理由無之故ニ豫審判事ノ受ケタ

ル告訴告発ハ被告事件罪ノ有無ニ

関セズ意見ヲ具シ其事件ヲ検事

ニ送致シ検事ハ亦百八条ニ從ヒ其

処分ヲ被害者ニ通知可然哉

指令

同ノ通

理由豫審判事直々ニ告訴告発ヲ受

ケ其事件罪トテ公訴受理ス可

ケラサレモト認ムル時ト雖凡其告
訴状告発状ハ檢事ニ送致スヘキ
モノトス元未起訴ハ檢事ノ職權
ニ屬スルコトテ豫審判事ニ於テ之
レヲ取捨スヘキノ權ヲ有セサルナリ故
ニ檢事ニ送致シ檢事ハ起訴スヘキ
モノニ非スト見認ル時ハ第百八條
ノ規則ニ從ヒ其処分ヲ被害者リ
通知スヘキモノナリ

滋賀縣

十五年一月十八日付
十五年二月十五日付

第六條 司法警察官告訴告発ヲ受ケ
タルハ治罪法第九十三條ニ依リ速ニ
其層類ヲ檢事ニ送致スヘキハ勿論ニ

候得共若シ該件タルヤ既ニ期滿免除
得又ハ被告事件罪トナラサルモノノ如
キハ直ニ棄却スルコトヲ得ル乎

指令

第六條 期滿免除又ハ被告人罪ト成
ラサル者ノ如キハ直ニ棄却スルコト得
ス意見ヲ附シ速ニ檢事ニ送致ス可

理由期滿免除ヲ得ルト又被告事件罪
トナラサト否トノ如キハ司法警察官
ニ於テ確認シ難クハ必檢事ニ送
致ス可キ者トス

茨城縣

十五年二月九日付
十五年三月廿一日付

第三條 茲ニ窃盜ノ害ニ係リタル旨告訴
シ来ル者アルニ其犯罪何人ノ所為ナルヤ
ヲ知ル能ハス如此モハ捜査ノ用ニ供ス
ル為メ警察署限リ該告訴ヲ領收シ
置犯人發見迄ハ檢事ニ送致セザル
モ妨ケナキヤ將タ犯人不明瞭ト雖モ
該告訴ハ必ス速ニ檢事ニ送致シ
起訴ノ手續ヲ經期滿免除ヲ中斷ス
ル儀ト相心得可然哉

指令

第三條 被告人明瞭ナラスト雖モ告訴
アリタル時ハ治罪法第九十三條ニ從ヒ
其事件ヲ檢事ニ送致スル儀ト心得

可シ

熊本始審裁判所長判事十五年二月 同 年四月廿日付

明治十五年本省丁才二号達陸軍省伺

才一項ノ指令ニ拠レハ軍人軍属ニシテ

普通刑法ノ重罪輕罪ヲ犯シタル

者ハ固ヨリ陸軍法衙ニ於テ処分ス

可キハ論ヲ俟タザルカ如シ然ルニ若シ

其重罪輕罪ノ犯人ナル場合ニ於テ被

害者又ハ其他ノ者ヨリ司法法衙ニ告

訴告発ヲ為シタル時ハ檢事又ハ豫

審判事ハ普通ノ規則ニ從ヒ之ヲ審

理シ其斷罪ノ點ノミ陸軍法衙ノ処

分ニ付ス可キ儀ト相心得可然哉右ハ

法律上其明文ヲ見サルニ付此段相伺候也

指令

伺ノ趣司法官衙ニ於テ被害者其他ノ者ヨリ告訴告発ヲ受ケタル中ハ直ニ軍衙ニ送致スヘキ儀ト心得

ハシ

福岡縣 十四年十一月九日付
十五年二月廿八日付

亦四條 司法警察官ハ告訴告発ニ係ル被告事件罪トナラス若クハ公訴受理スヘカラスト思料モラルルモ該事件ハ必ズ檢事ニ送付スヘキ乎又ハ直ニ棄却可然乎

福岡縣 十四年十一月九日付
十五年二月廿八日付

亦四條 司法警察官ハ告訴告発ニ係ル被告事件罪トナラス若クハ公訴受理スヘカラスト思料モラルルモ該事件ハ必ズ檢事ニ送付スヘキ乎又ハ直ニ棄却可然乎

右ハ左ノ通

亦四條 亦二百五條亦二項ニ司法警察官ハ証憑書類ニ意見各ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ之ヲ檢事ニ送致ス可シトアリ現行犯ノ場合ニ於テ尚且然リ其告訴告発ニ係ル被告事件ニ付テハ縱令其事件罪トナラス若クハ公訴受理スヘカラ

福岡縣

スト思料ニシテ爾時ト至ル必ス檢事
ニ送致セザルコ得ス

指令

九四條 檢事ニ送致スハシ
九九條 治罪法九十三條九四項ハ司
法警察官告訴ヲ受ケタルハ速ニ
其種類ヲ檢事ニ送付スヘシトアリ其
九十五條ハ口述ニテ告訴ヲナスヲ
許シ又之ヲ受タル官吏ノ処置法ヲ
定メタルモノナリ其九十七條九項
ニ九十四條九十五條ノ規則ニ從
ヒトアレハ告発モ口述ニテ之ヲナスヲ
得ルヤ明カナリ而テ其九二項告発ヲ

受ケタル官吏ハ九十三條ノ規則ニ從
ヒ其処分ヲナスヘシトアリテ口述ニテ告
發ヲ受ケタル官吏ノ所置振明文無
之ト至ル矢張九十五條ノ規則ニ從
ヒ取計可然乎

右ハ左ノ通

九九條 九十七條九二項ニ告發ヲ
受ケタル官吏ハ九十三條ノ規則ニ
從ヒ其処分ヲ為ス可シトアリテ九十四
條九二項ニ規定シタル口述ニテ告發
ヲ受ケタル官吏ノ処置振即今調卷
ヲ作り云々ノ事ヲ掲ケスト至ル既ニ
九十七條九一項ニ九十五條ノ

規則ニ從ヒ云々トイリテ口述ヲ以テ告
発ヲ為スヲ得ル以上ハ之ヲ受ケル
官吏ハ当然其調査ヲ作ラサルヲ得
サルカ故ニ此場合ニ於テモ亦同官吏
ハ亦九十五条ノ規則ニ從ヒ取計ラヒ
妨ケナキモノトス

指令

亦九条 伺ノ通

亦九条 治罪法亦九十三條檢事及ヒ
司法警察官告訴ヲ受ケタルハ云々
ノ場合モ前項ノ手續ヲ為シ然ル後
重軽罪ナリト思料シ若クハ重軽
罪ナリト思料セシト雖モ犯人逃亡

シテ所在不明ナルハ直々ニ豫審判
事ニ送付シ勾留状ヲ發スルヲ請
求スヘキヤ

内訓

亦九条 治罪法亦九十三條ノ場合ニ
於テ檢事重罪軽罪ノ告訴ヲ受ケ
タルハ其搜查ヲ遂ケルル上被告
人ノ逃亡セシト否トニ拘ハラヌ治罪
法亦百七条亦一亦二ノ規則ニ從ヒ処
分シ司法警察官右ノ告訴ヲ受ケリ
ルハ亦其搜查ヲ為シ同亦九十三條
亦四項ニ依リ被告人ノ逃亡セシト否ト
ニ拘ハラヌ速ニ其昏類ヲ檢事ニ送

致スレシ

青森縣

十五年四月廿五日請訓

亦六条 告訴告発ヲ受ケタル被告人
ヲ呼出シタルニ其原籍ニ該人別無
之時ハ該事件消滅シタルモノト見
認可然ヤ果シテ然ル時ハ未決事
件表ヘ記載方如何心得ヘキヤ

指令

亦六条 告訴告発トハ犯罪事件ヲ官
ニ告ソルモノニ付若シ犯罪アリト思料
スル時ハ其犯人分明ナラス若クハ人
違アル時ト雖モ告訴告発ノ事
件ハ消滅スヘキモノト非ス但起訴

アリタル以上ニ非サレハ未決事件表ニ
記載スルニ及ハス

義候哉

指令

亦二条伺ノ通

山梨縣

十五年三月三十日付
全 年四月十一日付

地所賣買讓渡規則亦五条ニ依リ地券書

換ノ期限ヲ怠ル者告発ノ義ニ付三月一日

付ヲ以テ相伺候処地券書換ヲ為サレ

モノハ期滿免除ノ効ヲ生セサルモノトス

御指令有之然ルニ右ニ付テハ曾テ縣

下東山梨郡長ヨリ別紙ノ通伺出候趣

モ有之如何致指揮可然乎取扱方頗

疑難ニ涉リ候義ニ有之尤モ治罪法ニ

於テ公訴ヲ行ハ檢察官ノ職務ニシ

テ被害者若シハ他ノ人民ニ於テハ告訴告

発ヲ為スヲ得ルモ之ヲ取捨スルハ独リ檢

事ノ権内ニ在リ其故意ニ受理セサル

モノ外亦告訴告発人ニ於テ敢テ公訴

對シ異義ヲ述フルノ道ナカルハ然レ

凡官吏職務上ヨリ犯罪アルコトヲ認知シ

タル場合ニ於テハ規則上必ラス之ヲ告発

セサル可ラス然ルニ檢事ノ誤認ニヨリ

之ヲ棄却セラレ而シテ他ニ之レカ審理

ヲ求ムルノ道ナキハ被告人ノ僥倖ヲ得

ルハ敢テ論セサルモ惟タ其事件ノ結局ニ於

テ差支不少即チ右地券書換ノ如キ御指

令ノ通期滿免除ヲ得可ラサルモノ

タルニ於テハ先ツ相當ノ処断ヲ経テ
ル後書換ヲ與フ可キ順序タルヲ以
テ其処断ヲ経サル間ハ書換ヲ為シ
難ク取扱方甚ク差支候然レモ
治罪法中右等ノ規則無之ニ付テ
ハ右一旦検事ニ於テ棄却シタル上
ハ該事件ハ自ラ消滅シタルモノト
シテ可取扱乎又ハ他ニ之レカ処理ヲ
求ムルノ道有之義ニ候哉

別紙ノ通山梨縣令代理同縣大書
記官薄井龍之ヨリ伺出候ニ付甲
府輕罪裁判所検事ハ御内訓
及同縣ハ御指令左ノ通可然哉

伺ノ趣ハ甲府始審裁判所検事ハ起訴
スハキ旨訓示ニ及候事

甲府始審裁判所検事ハ内訓十月十八日
山梨縣令代理同縣大書記官薄井龍
之ヨリ別紙ノ通伺出候処地券書換ヲ
怠リタルモノハ書換ヲ為サル間ハ期
滿免除ヲ得サルニ因リ該件ニ付テハ
起訴ノ手續ヲ為スヘシ

次城縣十四年十一月
十四年四月廿七日付

第十條 治罪法第九十三條司法警察
官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ書類ヲ檢
事ニ送付スヘシトアレモ証憑ノ湮
滅ヲ防ク為テ第九十四條ニ役ヒ候

被告人ノ訊問及ヒ検証ノ処分等ヲ了リ之ヲ検事ニ送付スルモ妨ケテキ義ニ候哉

指令

第十條 司法警察官非現行犯ヲ処分スルハ起訴ヲ為スニ足ルヘキ証憑ヲ搜查スルニ止ル訊問檢証等豫審ニ屬スル処分ヲ為スヲ得ス

第十條 治罪法

舊周拓使警部

十五年二月十四日實向
四年四月廿七日回答

第六條 治罪法第九十三條第四項司法警察官告訴ヲ受ケタル中ハ速ニ其書類ヲ検事ニ送付スヘキ云々ト有之右

ハ警部アラサル地ノ戸長所轄ノ人民ヨリ警察官又ハ分署ヘ告訴スルモノアル中ハ受理シテ其書類ヲ検事ニ送付シ可然哉又ハ管轄違ナルヲ以テ告訴ヲ却下スヘキモノニ有之哉

回答

第六條 戸長所在ノ一町村内ノ告訴ニ係ル中ト雖モ若シ警察官ニ告訴シ為シタル中ハ當然之ヲ受ケ搜查ノ上テ検事ニ送致ス可キモノトス

第七條 前條果シテ却下スヘキモノトセハ警部公務上ニ付管内巡回之際戸長アル地ノ人民ヨリ告訴スルモノアル中ト雖

凡無論受理セサルモノナレバ、原休ヲ失セ
サル様保護スルニ此ノ假ノ檢証処分ニハ
干豫セサルモノト心得可然哉

田 答

第七條前條ノ通告訴等ハ無論之ヲ
受ケ現行犯ナレバ直ニ檢證処分ヲ為
サ、凡可ナラス

函館始

京都府 十五年四月十五日付
全年月廿九日付

第九十四條 告訴人ハ成

第一條 違警罪ノ告訴ニ付差出シタル

ル可ク其證憑及ヒ事實

証秘物件ニシテ後令ハ甲故ナリシテ乙

参考ト為ル可キヲ申

ノ為ソニ毆打セラル、モ幸ニシテ創傷

立ツ可シ

疾病ノ禍ヲ免ルヨリ直ニ其相當官

又告訴人ハ第一百條以

ニ告訴セントシテ乙ノ袂ヲ捕ヘ同行

下ノ規則ニ從ヒ民事原

ヲ求ムルモ敢テ肯ンセス其袂ヲ振

告人ト為ルヲ得

リ切テ逃走然ルニ乙ノ破毀去リシ袂

ノ中ニ金品ノ在ルアリ依テ其終甲ヨ

リ右犯罪ノ証秘トシテ差出シタル時

又ハ甲ノ所有ナル田野園圃ニ於テ乙

ノ菜菓ヲ採食シ或ハ花キヲ採折ス

ルヲ認ムルヨリ甲ハ直ニ乙ヲ捕ヘント

告訴及ヒ告訴

第九十四條

司 法 省

セシニ乙ハ所有ノ物品ヲ其場ニ遺棄
 セシ物品ヲ以テ犯罪ノ証拠トナシ
 差出シテ他ノ所有主ナク且ツ乙ノ所有
 物トシテ他ノ所有主ナク且ツ乙ノ住
 所姓名知ル能ハスシテ公訴期滿
 免除ノ期限ヲ経過セハ如何処分
 ニ可然哉

指令

第一條遺失物取扱規則ニ依リ行
 政ノ処分ニ任ス可キ者ナレモ犯罪
 捜査ニ必要ナル者ハ期滿免除ニ
 至ルニテ之ヲ留置スルコトヲ得

告訴願下ヲ為シ
 タル時ハ願下書
 裏面ニ其願下
 ヲ聞届ケタル旨
 ヲ記載シ之ヲ却
 下ス

第九十五條ノ場
 合ニ於テハ告訴
 人請求セザルモ其
 証書ヲ渡ス第百
 八條ノ場合ニ於
 テハ必ス被害者
 ニ通知ス

福井縣十四年十一月廿五日同
 治罪法第九十五條

末項ニ告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ証書ヲ渡ス
 へシト有之然ル處古ハ持リ告訴ノニ限ラズ其願
 下ヲ為シタルモ同法第十六條ノ反訴アルヲ以テ
 本人ノ請求ニ依リ証書ヲ渡ス儀ト相心得可然哉
 指令 願下書ノ裏面ニ其願下ヲ聞届ケタル旨ヲ記
 載シ之ヲ却下スヘシ

水戸裁判所検事十四年十二月十七日請訓
 治罪法第
 九十五條ニ告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ証書ヲ渡
 ス可シトアレモ告訴人ノ請求ナキハ渡サ、ルモ
 可ナル歟又第百八條ニ検事ヨリ通知ス可シトア
 レモ一々告訴人ニ對シ其結果ノ如何ヲ通知セサ
 ルヲ得サルト為スハ其都度或ハ郵便ヲ以

第九十五條 告訴ハ署名
 捺印シタル書面ヲ以テ
 之ヲ為ス可シ
 又告訴ハ口述ヲ以テ之
 ヲ為スコトヲ得其告訴ヲ
 受ケタル官吏ハ調書ヲ
 作り告訴人ニ之ヲ讀聞
 カセ共ニ署名捺印ス可
 シ若シ告訴人署名捺印
 スルコト能ハサル時ハ其
 旨ヲ附記ス可シ
 告訴人ニハ告訴ヲ受ケ
 タルノ証書ヲ渡ス可シ

テ之ヲ告知シ或ハ警察署ニ依託シテ告知スル等
實際上其繁冗知ル可ラス故ニ被告事件ニ因リ適
宜ノ処置ヲ為スモ亦妨ナキ歟 訓示第九十五條ノ
場合ニ於テハ請求ナキモ其証書ヲ渡スヘシ第百
八條ノ場合ニ於テハ必ラス通知スヘシ

新得裁判所新登田支廳檢事十四年十月廿日
全年三月一日

從前告訴告発杖ノ儀ハ必ラス二通
ヲ差出候慣例ニ有之候処當地ノ
如キハ未用ノ人民多クハ自カラ筆
記スルヲ能ハサルヨリ鎖細ノ事件
刑律ニ觸レサルヲモ奸民之ヲ扇
動ニ代唇ノ資錢ヲ得ントスルノ弊
凡モ有之候条当職務開始ノ上ハ

告訴告発ハ一通ヲ為差出且唇面ヲ筆
記スル能ハサルモハ口述ヲ以テ告訴
告発ヲ為スモ不苦事、相定ノ度右
ハ治罪法第九十五條ノ二項ニモ明掲
有之候ニ付別段御差支ノ儀ハ有之
間敷ト被存候得共為念一應此段上
申仕置候也

右告訴告発令状ノ件ニ付係リ上申
有之候処右ハ同檢事上申ノ趣ハ
相當ノ儀ト考量候ニ付供電覽
候也

福島裁判所平支廳檢事十四年十二月請訓
十五年二月廿日内訓
第百八條 治罪法第九十五條ニ依リ官吏

ノ作リタル告訴告発ニ付テノ調査ニハ
官吏之ニ連署捺印スヘキナル本
人ヨリ差出シタル告訴告発ニハ連
署捺印スヘキノ明文ナシ此場合ニ
ハ認印ノミニテ可ナル義乎

内訓

亦八条見解ノ通

亦九条治罪法亦百六条ノ場合ニ於
テ告訴告発人官署ニ来ラサルハ
巡査ニ就テ其被告人ヲ引致シリ
ノ事由ヲ向評シ調査ヲ作ルハキ
者ナラン

亦九条調査ヲ作ルニ及ハス

理由現行犯スヲ逮捕シテ巡査ニ引渡
スルハ之ヲ逮捕シタル者ニ於テ速
ニ告訴又ハ告発ヲ為ス可キ者
ナレハ二重ノ手放シ煩ハスニ及
ブ間敷ト考量ス

茨城縣十四年十一月
十五年四月廿七日付

第十一條 治罪法亦九十五條官吏告訴
ヲ受ケタル為メ告訴人ニ渡スヘキ証書
ハ一定ノ書式ヲ頒布セラルヘキ乎又ハ
地方適宜ニ之ヲ調劑スルモノニ可有
之哉

指令

亦十一條 後段同ノ通

司
法
官

官吏ノ義務ヲ以テ告発セシモノト
 雖モ第十七條ニ明記アル官吏ノ外ハ要償ノ責ニ任ス

會議局ニ於テハ附帶ニ非サル別罪及ヒ豫審中共犯附帶犯罪ヲ発見スルモ未タ請求ヲ受ケサル事件ニ付告発ニ止ム

勅任官公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタルハ大審院檢事ニ告発ス

警察署又ハ公廷内署ニ於テハ公廷内ノ犯罪ハ裁判スルヲ得ヌ檢事ニ告発

スヘシ

仙臺裁判所判事十三年十二月十日請訓第九十九

罪裁判所檢察官ニ告発ス可シ

條中被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受ル云々トアルハ第九十六條ニ照シ官吏ノ義務ヲ以テ告発セシモノト雖モ第十六條ノ規則ニ從ヒ要償ノ責ニ任スヘキモノ歟訓示第十七條ニ明記アル官吏ノ外ハ要償ノ責ニ任スヘシ

第二百五十五條職権ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ為シ云々トアル場合ニ於テハ檢事ニ通知スヘキモノ歟前條ノ場合ニ於テ附帶ニ非サル別罪ヲ発見シタルハ會議局ヨリ告発スルニ止ルヘキ又通常豫審中共犯及ヒ附帶ノ犯罪ヲ発見スルモ是亦豫審判事ヨリ告発スルニ止ルヘキ

裁或ハ該條ノ例ニ準シ直ニ豫審スルヲ得ヘキ裁訓示判事ヲシテ豫審ヲ為サシムルハ檢事ニ通知スヘシ附帶ニアラサルノ別罪及ヒ豫審中共犯附帶犯罪ヲ発見スルモ未タ請求ヲ受ケサル事件ニ付告発スルニ止ム可シ

第二百七十五條公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル云々トアリ若シ公廷ニ於テ勅任官重罪ヲ犯シタルハ之ヲ告発シテ大審院檢事長ニ送ルヘキモノ歟或ハ第二百七十三條身分ノ如何ニ拘ラサル例ニ準シ通常豫審判事ニ送付スヘキモノ歟訓示大審院檢事ニ告発スヘシ

高知縣十四年十一月十七日同治罪法第二百七十四條ニ公廷内ノ犯罪ニ付テハ違警罪裁判所ニ於

告訴及ヒ告発

同 去 八頁

警察署ニテ違警罪ノ公判ヲ為ス場合ニ於テ治罪人及ヒ鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル場合ニ於テハ罰金ヲ言渡スヲ得ス換事ニ告発ス但宣誓ヲ為サシムルト否トハ便宜ニ任ス

テ輕罪ニ付始審ノ裁判ヲ為スコシト定メラレタリ本年第四十八号ヲ以テ違警罪裁判ヲ府縣警察署ニ委ネラレタル上ハ無論該條ニ據リ警察署ニ於テ公廷内ノ犯罪ニ係ル輕罪ヲ裁判致シ候儀ト相心得可然哉 指令 公廷内ノ輕罪ハ裁判スルヲ得ス換事ニ告発スヘシ

警察署ニテ違警罪ノ公判ヲ為ス場合ニ於テ治罪法第二百八十七條及ヒ第二百九十七條ニ據リ証人又ハ鑑定人ヲ呼出シタル時之ニ應セサルカ又ハ宣誓ヲ肯セス及ヒ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ第百七十六條第百八十三條第百九十四條ニ定ル規則ニ遵ヒ直ニ罰金ヲ言渡スヲ得ル儀ト相心得可然哉 指令 証人及ヒ鑑定人呼出ニ応セサルハ治

罪法第二百九十條ニ依リ科料ヲ言渡スコシ証人及ヒ鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル場合ニ於テハ罰金ヲ言渡スヲ得ス換事ニ告発ス可シ但宣誓ヲ為サシムルト否トハ便宜ノ処分ニ任ス

兵庫縣 十四年十月八日付
全 年十二月廿二日付

第十五條 刑法第四百廿六條及九項ニ亙

死人ノ檢視ヲ受ケスニテ埋葬シタル者

トアリ其被殺自殺ヲ向ハス官ノ檢視

ヲ經ルハ論ヲ俟タズ而シ其自殺

被殺ノ景狀トキ場合及經死漸死トモ

如キハ固ヨリ犯罪ニ原因セサルヲ以テ

治罪法ニ從ハス行政ノ処分ニ此

告訴及ヒ告發

同 法 小冊

ハシト魚モ其被殺ノ如キハ縦令救月ヲ
経過ニシテモ死屍アルトキハ非現行
ナルヲ以テ檢視処分ハ尚ホ治罪法ニ
從ヒ豫審判事ノ權内ニ屬スルハ勿
論ニ有之候哉

指令

第十五条 警察官行政ノ処分ヲ以
テ死屍ヲ檢視ニシタル場合ニ於テ犯罪
アルトキ認知シ又ハ思料ニシタルハ
搜查ノ処分ヲ為シ檢視明細書及ヒ
其他ノ證據書類ヲ檢事ニ送致ス
可シ

愛媛縣同

十五年二月十一日
年四月十四日
的電報

重罪違警罪トモ非現行ノ自首ス
ルモノアルトキハ無論現行犯ノ取扱
為スハクヤ直ニ御指令アリキ

指令

非現行犯ノ自首ニ係ル件ハ非現行
犯ノ処分ニ屬ス可キ者トス

福島始審裁判所檢事

十五年二月九日
全 年三月八日
付

爰、人民ヨリ司法警察官、對ニ自分
本日某山中ヲ通過スル所死屍ヲ見
タリ滿身血ニ染ミ刀痕散ケ所アリ又
ハ某ノ原野通行ノ際死屍アルヲ見
タリ皮膚ニ點陰ヲ顯ハスト報告ス
其報告ニ依ルニ其死ニシタルハ人ノ為

ナニ殺害又ハ毒殺サレタルモノナラン
 ト思料スルモ行兇人ト覺シキ者更
 ニ見ハス然ラハ非現行ニシテ司法警
 察官ニ於テ檢証処分ヲ行フコト得
 ス其昏類ヲ檢事ニ送致スヘシ然
 ルニ當裁判所ト管轄警察署近
 其里程十五六里隔リ居ル所アリ而
 ニテ電信モヤケレハ郵便ニ附スルモ
 僻邑ニシテ迅ニ達セズ檢事之ヲ受
 ケ直ニ臨檢ノ処分ヲ豫審判事ニ
 請求ス豫審判事自カニ臨檢スル
 カ治安判事ニ囑託スルカ又ハ十
 四年才四十六号公布ニ依リ司法

警察官ニ囑託スルカ又ハ其年續テテ
 檢証ニ着手スルニ其間六七日ヲ費ス
 一ニ炎暑ノ節等ハ或ハ屍體腐爛ニ
 其致命ノ理由ヲ知ルニ由ナキコトアリ
 テ實際不都合不勘ト存候依テ前項
 ノ場合ハ準現行犯ト者做ニ最寄司
 法警察官ニ於テ檢証ノ処分ヲ為スモ
 差支無ク之哉

右審案スルニ本件ノ場合ニ於テハ警
 察官行政上ノ処分ヲ以テ檢視ノ手續
 ヲ了リシ後該場ノ景況其他捜査
 ノ用ニ供スルニ足ル個條ヲ詳細取
 調ヘ昏類ヲ以テ檢事ニ送致ス

可然ト考量ス因テ左ノ通

指令

伺ノ趣警察官行政上ノ処分ヲ以テ直々
ニ検視ノ手續ヲ為シ若シ犯罪アリト
認知シ又ハ思料シタルハ証憑書類
ヲ供ヘ検事ニ送致スル儀ト心得
本更津輕罪裁判所検事十五年四月十二日請訓
全年全月廿二日内訓
第一条警察官ニ於テ縊死人有之旨報
告ヲ受ドケル時ハ先ツ行政ノ資格ヲ
以テ検視致シ他ニ異状ナリ真ノ自縊ト
見認メタル時ハ親屬ニ死体ヲ渡シ送
葬ナサシメ若シ真ノ自縊ナル徴證見
ハサレハ司法警察官ノ資格ニテ豫審

判事ニ右ノ趣ヲ告登シ死体ハ原態ノ終
ニシテ番人ヲ付ケ豫審判事ノ出張ヲ待
ツヘキ筈ニ候哉將シ現行犯ノ処分ニ
準シ判事ノ出張ヲ待リス直ニ檢證
処分ヲ為スヘキ儀ニ候哉

内訓

第一条行政上ノ処分ヲ以テ直ニ検視
ノ手續ヲ為シ若シ犯罪アリト認知
シ又ハ思料シタル時ハ証憑書類ヲ
供ヘ検事ニ送致ス可シ
第二条檢察官ニ前条ノ報告アルモ
未シ犯罪者アル事判然セサレハ行
政ノ処分ニ譲リ出張セスニテ可然

哉又ハ自縊ナル哉否ハ檢視ノ上ニ非
サレハ思料ヲ下サレサルモノニ付其報
告ヲ得ルヤ直ニ臨檢シ真ノ自縊ト
見認メタル時ハ行政ノ処分ヲ為シ
シムル為メ警察官ニ通知シ若シ
自縊ニアラズ他ニ犯罪人アラレト思
料ミタル時ハ豫審判事ニ通知シ檢
証処分ヲ請求ミタル後起訴ノ手
続ヲヤシ可然哉
第一條 凌死人ノ檢視ハ政ノ処分ニ
依リテ其
他ハ前條内別ニ依リテ解ス
ル

京都府

十五年五月十六日付
同日 二年四月三十日付

第一條 從前描改紙幣ヲ發見シテ人民ヨ
リ届出タル時ハ警察官ニ於テ持主出
先等取調ヘタレ其描改セシモノ若ク
ハ其情ヲ知テ行使シタルモノ等ヲ除ク
外ハ總テ明治九年大藏省甲オ十二号
達ニ依リ當府ヨリ直ニ同省ハ納付致
来候処新法實施ノ今日ニ在テ右等ノ
取調ヲ為スハ警察官ノ權外ニ涉ル
ヲ以テ悉皆檢事ハ送付シ豫審判
事ニ於テ取調相濟タル上之ヲ當府
ニ受取大藏省ハ納付シ可然哉又ハ從
前通り取扱可申哉
第二條 前條果シテ前段見込ノ通り

司
裁
官

ニ候ハ、實造紙幣ノ義モ察見スル毎
ニ悉皆檢事ハ交付スル義ト相心得
可然哉

指令

第一条 第二条 犯罪捜査ニ必要ナリ
ナル者ハ總テ行政警察官ニ処分ス
任スルニ

札 總本廳 十四年十月廿四日 同令
十五年十月十四日 同令

第一条 今茲ニ非現行罪犯ヲ告訴ス
ル者アリ檢官ニ於テ夫々推針スト重
ク竟ニ招承ニ服セサルヲ以テ証據裁
判ノ意見ヲ付シ公訴致シテ然レ
テ法官ニ於テ直ニ公廷ヲ罷キ檢官

ハ勿論告訴人共對審弁論ニ付スルト
至其其實一ツモ証ノ扱ル可キナキヲ
以テ竟ニ無罪ノ裁判ニ及ヒ又ハ及
ハントスル際該被告ノ於テ抑此
事ヲ全ク告訴人ノ誣告ニ出ルヨリ
榮譽毀損ハ扱置ル来非常ノ慘苦
ニ係リタルハ畢生ノ遺憾ニ堪ハサ
ル次第ナレリ以テ直ニ法官ニ對シ
告訴人ノ誣告ノ罪ニ処セラレシム
請求ニ若クハ法官ニ於テ該告訴人
ハ故意ヲ以テ被告人ノ誣告セシ者ト
認定スル場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ト
見做シ直ニ裁判ニ著于可然哉又ハ

檢官ニ移シ公訴ヲ待ツモノニ可有之
哉

右ハ被告人告訴人ヲ誣告者ナリト申
立テ裁判官ニ於テ誣告ト見込ム
モノハ附帶ノ犯罪トスルコト得ス何
トナレバ誣告セラレタルモノハ固
ヨリ無罪ニモテ附帶スヘキ一ノ犯
罪アリヤレハナリ此場合ニ於テハ
裁判官ハ檢察官ニ告発ニ其起
訴ヲ起訴ヲ待ヤル可カラズ因テ
左ノ通

回答

亦一條裁判官ニ於テ誣告ト見込ムモ

ハ檢察官ニ告発ニ可然

滋賀縣警部

十四年十二月廿一日覽向
同日十二月十六日回答

第五條 治罪法第九十六條ニ官吏ノ
告発ノ一ヲ記載セリ司法警察官
ト雖モ非現行犯アル一ヲ認知シ又
ハ思料シタルハ本條ニ依リ告発
ス可キモノカ

回答

亦五條 司法警察官ハ檢事ノ補佐
官ナレバ自ラ非現行犯アル一ヲ認知
シ又ハ思料シタルハ治罪法第九十
二條ニ依リ捜査ヲ為シタル上ロニテ
其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ

岡山始審裁判所判事十四年十二月廿八日請訓
十五年一月十九日内訓

第二條 治罪法第九十三條ニ依リ豫審
判事檢事ノ請求アリタルニ因リ豫審
ヲ為ス時被告人ノ申立ニテ他ノ正犯
若クハ後犯等ヲ覺知シタル時ハ治
罪法第九十三條亦二項ニ依リ処分
可致ハ勿論ト心得居候得共被告
人其罪ヲ自供セザル共犯若クハ
後犯ト認知シ又ハ思料ス可キ者
アリタル場合ニ於テハ治罪法第九
十六條ノ規則ニ從ヒ之ヲ檢事ニ告
発ス可キ者ニ候哉

内訓

客年十二月廿八日附請訓ノ趣亦二條豫
審判事ハ直ニ豫審ヲ為シ其旨ヲ檢
事ニ通知スル儀ト心得ハシ此旨
及内訓候也

滋賀縣十五年二月十八日付
十五年二月十五日付

第三條 治罪法第九十六條ノ官吏中ニ
ハ等外吏諸雇負等モ總テ包含スル乎

指令

亦三條 等外吏諸雇負ト金屯官吏ニ
準スル者ハ同ノ通

亦四條 巡查又ハ警察雇負等其職務
ヲ行フニ方リ重罪輕罪アヘリヲ認知シ
又ハ思料シタルハ本屬警部ニ報

告セシノ其報告ヲ受ケリシレ警部ヨリ
之ヲ検事ニ告発スルモ妨ケナキ乎
第四條 同ノ通

茨城縣十五年二月九日付
全年月廿日付

第一條 茲ニ官林アリ何等看守其ノ監
守スル処タリ偶々該官林ノ樹木ヲ盜
伐スル者アリテ其監守者之ヲ覺知
セシ片ハ即チ看守人ノ職務ヲ以テ
告発スヘキモノナルヤ將タ一般人民
ト同リ治罪法ヲ九十七條ニ依リ告
発スヘキ筋ニ可有之哉

右審按スルニ第一條ハ職務ヲ行フ際
ニ係ル者ハ治罪法ヲ九十六條ニ依リ

告発ヲ為ス可義務アル者ナレハ
一般人民ノ告発ト同視ス可キ者
ニマラス因テ左ノ通

指令

第一條 看守人官吏ナル片ハ職務ヲ
以テ告発スヘキモノトス

第二條 前項ニ屬スル賠償亦ハ返還
ノ私訴ハ看守者ヨリ起訴スルヲ得
ヘキモノニ有之哉

右審按スルニ第二條ハ看守人ニ
於テ自己ノ意見ヲ以テ私訴ヲ起ス
ハ不都合ナレ其官林ノ所轄スル
省若クハ縣ノ指揮ニ出ル時ハ省

守人ト金ニ私訴ヲ為スハ妨ナシ
因テ左ノ通

指令

オニ条其官林ヲ管轄スル官廳ノ
委任アルハ私訴ヲ為スルヲ得

オ十条 治罪法ヲ九十六条官吏職務ヲ行

フニ当リ云々其ヲ三項ニ違警罪ニ付テハ

云々告発スルニシトアリテ現行非現行犯区

別ヲ記載ナケルハ現非両犯共ニ之ヲ告発

シ然ルモノ如シ

同オ百二条ニハ司法警察官及ヒ巡査其

職務ヲ行フニ当リ云々其ヲ二項ニ違警言

罪ノ現行犯アルニテ知リタルハ云々

岡縣十四年二月
廿八日付

告発スルニシトアリテ他ニ非現行犯ヲ告発

スルノ明文ヲ視サレハ司法警察官及ヒ巡

査ハ違警罪ニ就キテノ告発ハ全リ現行

犯ニ限ルモノ如シ

同オ九十三条ニ何人ニ限ラス重軽罪ニ

ヨリ損害ヲ受ケタルモノハ云々告発

スルニテ得ルトアリ現非犯罪ノ別ナケ

ルハ現非ヲ論セス告発スルニテ得而シ

テ一般人民ハ現非トモニ告発スルニテ

得ヤレモノ如シ右ノ如クナルハ違

警罪ノ被害者ハ其現非ヲ論セス告

訴ヲ為シ一般官吏モ亦現非ヲ分クテ

告発ヲ為シ司法警察官ハ單ニ現行

犯ニ止リ一般人民ハ現行犯ト雖此一切之ヲ
為ニ得ヤルモト相心得可然乎

右ハ左ノ通

第十條 違警罪ニ付テハ其被害者
ハ亦九十三條亦五項ニ依リ現行犯非
現行犯ニ拘ハラス告訴スルヲ得一
般官吏ハ亦九十六條ニ依リ現非ヲ
論セス告発スルヲ得ハ司法警察
官ハ亦百二條ニ依レハ現行犯ニ
限リ告発スルヲ得ルカ如シト雖此
亦九十六條ニ謂フ所ノ官吏中ニハ
司法警察官ヲモ包括スルモノナ
レハ本條亦五項ニ依リ其非現行ニ

係ル者モ亦告発スルヲ得ハ而シテ一
般人民ニ至リテハ亦九十三條以下違警
罪ニ付告発ヲ為スルヲ得ルノ明文ナリ
且違警罪ノ事件ナル細微ニシテ
其公益ヲ害フヤ亦從テ細小ナルヲ
以テ一般人民ニ於テハ其現非ニ拘ハ
ラス告発スルヲ得ヤルヲ至當ナリトス
因テ左ノ通

指合

亦十條 治罪法亦九十六條ニ謂フ所ノ官
吏トハ司法警察官モ其包括ニシル者
トス故ニ違警罪ニ付司法警察官ノ
告発スルハ獨リ現行犯ニ止ニラス又

其被害者ニ於テ現行非現行ヲ分ケス
告訴ヲ為シ得ルハ勿論ナリト云モ一
般人民ニ於テハ其現非ニ拘ハラズ告
発ニ為スヲ得ザル儀ト心得ヘシ

中村始審裁判所検事十五年二月十一日借見
全三年三月九日四卷

才二条 治罪法九十六条官吏其職
務ヲ行フニ因リ云々トアリ此法文ニ因
リノ字義ニ著目解釈ヲ下セハ役令ハ
酒造検査官検査ノ際造酒ノ隠
蔽若クハ過醸ヲ目撃シ或ハ民事
裁判官訟庭ニ臨ミ証看見聞ノ
際証券印紙ノ不貼ヲ認知シケル
等ノ類ニテ其職務ヲ行フニ起因

発覚ノ罪ノミヲ指シ傍ニ在テ餘罪ヲ
犯スモノアルヲ目撃スルモ告発ヲナ
ス可キ義務ナキモノ如シト云モ法
文ノ精神ヲ考フルニ官吏其職務ヲ
行フ場所ニ於テ重罪輕罪アルトテ
認メ又ハ思料ミケルハ必ス此条ニ
因リ告発スルキ勅ナラン然ラサレハ
官吏職務ノ一部ヲ怠ルノ責アリト
ノ法理ニ適セサルハ故ニ此条ハ廣
ク官吏其職務ヲ行フニ方リト解釈
ニ可然哉

回答

才二条前段御見込ノ通

滋賀縣

十一年三月四日付
全年全月十八日付

第一條 地方長官又ハ警部部長等職
務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アルコトヲ
認知シ又ハ思料シテハ治罪法
第九十六條ニ依リ同官ノ名ヲ以テ
速ニ其地ノ檢事ニ告登シ若シ其
事件ニ付裁判所ヨリ証人トシテ同
官ヲ呼出シ來ルルハ其事件ヲ專
理スル主任官吏ヲ出頭為致不苦
哉

指令

第一條 証人トシテ呼出ヲ受ケタル
者ハ代人ヲ差出スルコトヲ許サズ

但其地方長官勅任官ナルルハ治

罪法第九十七條ノ通心得ヘシ

第二條 前條証人ハ一般証人ト異ナリ

職務上ニ付呼出サレモノナルヲ以テ

其呼出方ハ裁判所書記局ヨリ通

知書ヲ以テ呼出し又出頭スルモ宣

誓スルニ不及義ト心得可然哉

右審案スルニ亦二條前條ノ官吏

トモ証人トシテ呼出スルハ一般

証人ト異ナルトナキニ因リ仍ホ

呼出状ヲ以テ呼出し又宣誓言セシ

ハハキモト考量ス因テ左ノ通

指令

同
法
第
百
八
十
七
條

亦二条 一般証人と異ナルトナシ

但司法警察官ノ場合ヲ以テ

其職務ヲ行ヒラルル中ハ此限ニ

マラス

秋田始審裁判所検事 十五年二月廿一日請訓
全 年三月二十日内訓

第一条 治罪法亦二条 私訴ハ犯罪ニ依

リ云々民法ニ後ニ被害者ニ属ス又ク同

法亦九十六条官吏其職務ヲ行フニ依

リ云々検事ニ告発スヘシト有之候処

茲ニ官筋ヲ盗伐誤伐ニ或ヒハ官金

ヲ竊取シ又ハ電信柱木其他官立公

立ノ建造物ヲ毀損スル者アリ官吏

之ヲ知リタル中ハ前亦九十六条ニ後ニ

告発スヘキ義ト存候得共若シ山林局員

會計負電信局員其他各官守ノ官

吏前犯罪アルヲ知リタル中告発シ

為シ而シ又私訴ヲ為スハ前二条ノ

法文上咎咎スルモ一、如ク思考ス

右ハ官吏ト雖モ自ラ者守スル官

物ニ係ル犯罪ヲ認知シタル中ハ官

署定ムル処ノ規則ニ依リ官吏自ラ

被害者トシテ告訴私訴ヲ為ス可

得ハキ法意ト解詁候テ可然哉

内訓

亦一条 前段意見ノ如キハ官吏職

務ヲ行フニ因リ罪アルヲ認知又ハ

思料ニシテハ者ト云フヲ得ス通常人
ノ場合ヲ以テ告発スルキ者トス後
段官吏職務ヲ行フニ因リ犯罪ヲ認
知思料ニ官之カ被害者トナリ
ルハハ官吏代リテ被害者トナリ私
訴ヲナスハ
才二条官吏前条ノ如キ自己ノ看守ニ係ル
官物ニ對シ犯罪アルヲ認知又ハ思料ス
ル場合ニ於テ被告人ヲ指定セズニテ告訴
ヲ為シ又ハ常人ヨリ同上ノ如キ告訴ヲ為
シテハト雖モ司法警察官ニ移シ
証憑及ビ被告人ヲ捜査セシムルハ無
論ノ義ト思考候得共仍ホ此場合ハ

於テ治罪法ヲ百十條ノ規則ニ從ヒ被害
者ヨリ私訴ヲ為スヲ得ヘキ義ト解釈
候テ可然哉

但シ本文盜伐セシ木校現場ニアル
カ又ハ他人ノ宅地等ニアリテ指定
スヘキ被告人ノアラサルハ該品
下渡ニ方司法警察官ニ於テ直
ニ取計フモ不苦哉

内訓

第二條此場合ニ於テモ附帶ノ私訴ヲ
為スヲ得

但各役ニ下渡スル妨ケナシ

才三條官吏ト雖モ看守セル官物ニ

係リ犯罪アルヲ認知セシルハ被害者トシテ告訴私訴ヲ為スヲ得ルモノトセハ治罪法第九十六条ノ例ニ從ヒ各面ヲ以テ請求シ自ラ法衙ニ出廷セサルモ差支サルヤ或ハ代人ヲ以テ出廷セシメサルヲ得サルヤ

但シ法衙ニ於テ官吏ノ出廷ヲ必用ナリトスルハ又ハ私訴ノ裁判言渡等ノ節ハ公廷ニ呼出シ聽審セシムル義ニ可有之候哉

内訓

第三條 通常人ノ場合ヲ以テ告登スルハ代人ヲ用ユルヲ許スモ第九十六条ニ

從フハ代人ヲ用ユルヲ許サレ者トス

但各見解ノ通

愛媛縣

十五年三月廿三日申
全 四年四月十七日

官吏ノ告登書ハ治罪法第九十六条ニ仍リ取扱同法第九十五条ノ官署ノ印ハ用ユルニ不及哉ノ旨電報ヲ以相伺本月十五日見込ノ通リト御指令相成候ニ付御指令ノ趣檢事ハ及通報候処治罪法第九十五条ハ則チ總則ニ付同法一般ニ通シ用ユルハ論ヲ候タテ而シテ官吏ノ告登ニ限リ時ニ適用セサルノ理由ハ万々無之義ト承認スルヲ以テ右法式ニ背キタル書類ハ其効ナキモノト見做スヘキ

旨回答有之取扱方差支候間最之本
縣へ御指令ノ趣至急検事へ御達相
成度此段上申候也

愛媛縣へ向合 十五年三月廿九日

本月廿二日官吏告発書ノ義ニ付上申書中
検事トイハ何レノ裁判所ナルヤ至急回
答アレ

愛媛縣ヨリ回答 十五年三月三十日

本月二十日上申ノ検事ハ松山裁判所ナリ
治罪法九十六条官吏告発書ハ
全ク取調ニ由セサル官吏ノ作ルハキモノ
ニシテ同法九十二条ニ所謂書類トハ
其性質相異ナルリ以テ別段所屬官

官署ノ印ヲ捺スルヲ要セサルモノトス

是レ嚮キニ愛媛縣向ニ見込ノ通ト
御指令アリシ所以ナリ依テ左ノ通

松山始審裁判所検事へ御訓示
是レ愛媛縣へ御達相成可然哉

松山始審裁判所検事へ訓示 十五年四月十日

官吏告発書ノ義ニ付別紙ノ通愛媛縣

令聞新平ヨリ申出候処治罪法九十六

条亦二項官吏ノ告発書ハ同法九十二条

ニ所謂書類トハ其性質相異ナルモノニ付

別段所屬官署ノ印ヲ捺スルニ及ハサルモ

ノトス依テ愛媛縣へ指令ノ通可加心得

此旨訓示候事

愛媛縣へ達 十五年四月十七日

三月廿二日附上申ノ趣別紙ノ通松山始審
裁判所検事へ訓示候条此旨可相心得

事(別紙ハ前)

鹿見島縣 十五年三月廿五日付
全 年四月十七日付

第一条 治罪法九十六条ノ一項官
吏職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アル
トヲ認知シ又ハ重罪輕罪アリト思料
シタル時ハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢
事ニ告発スハシト有之然ルニ明治十四
年ノ五十四号公布ヲ以テ治安裁判所ニ於
テモ輕罪裁判所ヲ完カルコトアルニ付テハ
右官吏職務ヲ行フニ因リ認知シ又ハ思

料シタル輕罪ハ其職務ヲ行フ地ノ管轄ス
ル治安裁判所ニ於テ檢事ノ代理トシテ
檢察官ノ職務ヲ行フ可キ警部
モ告発シ不苦義ニ候哉

指令

第一条 同ノ通

才二条 前条官吏ノ告発スル場合ニ
於テハ治罪法九十六条才二項ニ告
発ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ
以テ之ヲ為シ云々トマルヲ以テ其告發
書ハ官吏ノ署名捺印スルヲ以テ足
ルモノニシテ全法才二十五条才一項ノ
所屬官署ノ印ヲ用ヒサルモ妨ケナキ

義ニ候哉

指令

廿二条 伺ノ通

茨城縣

十四年十一月 何
十五年四月廿七日付

第十三条 前条官吏云々其職務ヲ行フ
地ノ檢事、告発ス可シ違警罪、付テ
ハ違警罪裁判所檢察官ニ告発スハ
シトアリテ法文中司法警察官ニモ告
発スルヲ得ヘシト言フ一アルヲ見ス之
ニ依テ見ツ見ルニ司法警察官ハ如何
ナル場合ト金尾官吏ノ告発ヲ受ルル
能ハヤル義ト可心得哉

指令

第十三条 伺ノ通但シ司法警察官自
ラ犯罪アル一ヲ知リタル時ハ前条指
令ノ通処分スル一ヲ得

第十四条 前条官吏職務ヲ行フニ因
リ認知又ハ思料シタル重罪輕罪ヲ
告発シ過実又ハ重キ過失ニ係リタル
トキハ前条十七条ニ從ヒ要償ヲ免レヤ
ル義ニ可有之哉

指令

第十四条 官吏職務上ノ告発ニ付テハ
要償ノ訴ヲ受クル一ヲナル可シ

大藏省

十五年四月十七日照會
全 年 全月廿七日回答

治罪法第九十六条ニ官吏其職務ヲ行フニ

因リ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重
罪輕罪アリト思料シタルハ速ニ其
職務ヲ行フ地ノ検事ニ告発スヘシト
有之候処其犯罪外国人ニ係ル場合ニ
於テモ該官吏ハ該条ニ準シテ処分致
可然義ト存候得共一應貴省御見
込承知致度此段及御向合候也

回答

治罪法九十六條官吏職務ヲ行フニ
因リ犯罪アルコトヲ認知又ハ思料シタル
ニ其犯罪者外国人ニ係ル場合ニ於テモ
該条ニ依ル可キ武ノ義御照會ノ趣
致承知候右ハ御意見ノ通ニテ異存無

之候条此段及回答候也

山田輕罪裁判所檢事

十五年二月八日請訓
全年四月廿七日内訓

第二十二條 凡ソ官吏トハ准等外以上

ヲ指稱スルノ謂ナルハシ故ニ地方ノ

便宜ニ因リ酒造検査若クハ証券

印稅等勘査ノ為ニ御用掛雇等

ヲ派遣シタルハ犯則アルコトヲ認

知スルモ官吏ノ資格ヲ有セサルハ

第九十六條ニ依リ直ニ告発スル

ヲ得可カラサル乎果シテ然ラハ

其上官ニ報告シ上官受ケテ之ヲ

告発スヘキ順序キル乎

内訓

同業書

第二十二條 御用掛又ハ雇ト虫モ官
吏ニ準ス可キ者ハ本法第九十六條
ニ依リ告発ス可シ但官吏ニ準ス
可カラサル者犯罪アルトテ認知
シタルハ本法九十七條ニ依リ
告発スルトテ得

山口始審裁判所検事 十五年四月廿五日付
全 年五月廿日付

官吏職務ヲ行フニ因リ酒類稅則証
券印稅規則地券書換規則等ヲ犯
スモノアルトテ知リタル節ハ其官吏ノ
在ル地ハ始審裁判所々在ノ地ニアラ
スト虫モ治罪法第九十六條ニ依リ尽
ク檢事ニ告発セサルヲ得ス然ルニ該

犯罪ノ如キハ豫審ヲ要スルモノ甚稀
ナルヲ以テ其被告ノ住所治安裁判所
管内ナル時ハ該治安裁判所ハ公訴
ヲ起スヲ得ルハ勿論ニ有之然ルニ檢
事直ニ之ヲ受理シタルニ依リ遠隔
ノ地ニ住スル被告人ヲ喚徴候時ハ人民
ノ不便少ナラスト存候ニ付右等ノ
告発ハ小官ニ於テ一應受理シ其被
告ノ住所ヲ檢シ輕罪裁判所々在ノ地
ヲ除キ他ノ治安裁判所ノ管内ニ屬スル
時ハ更ニ其事件ヲ該治安裁判所々在
地ノ警察官ニ移シ起訴ノ手續ヲナサン
ノ居候得共畢竟スルニ右等ノ事ハ書

々午教ヲ生スルニ過サルノミナラス隨テ
書類送付ノ費用モ亦勘ナカラス就テ
ハ始審裁判所以外ノ地ニ於テ告発ヲ
ナス時ハ其事件重罪ヲ除ク外ハ直
ニ治安裁判所々在ノ地ノ警察官ハ
告発シ其警察官ニ於テ豫審ヲ要ス
ルモノト見込分ハ更ニ検事ヘ送付候
様致シ度然ル時ハ明治十四年才五十
四号布告ノ趣意ニモ相協可申ト存
候右ハ治罪法才九十六條ニ記載セル
検事ノ内ニハ治安裁判所々在ノ地ノ
警部ニモテ検事ノ職務ヲ代理スヘ
キモノモ含有致シ居候モノト相心得

可然哉相伺候但シ治罪法才九十六條
ニ於テ右ノ趣意含有致シ居候モノト
解シ難キ義ニ候ハ、右ノ類ハ更ニ治
安裁判所々在ノ地ノ警部ヘ告発候
様御達相成候様仕度此段併セテ
及具申候也

指令

伺ノ通直ニ治安裁判所々在地ノ検事
代理ノ警部ニ告発スルヲ得ル義ト心得

滋賀縣十五年四月廿八日付
全 年五月廿日付

第一条 茲ニ未決在監人アリ詐欺取賤事
件審理上罪トナル可キノ証佐不充分ナ

ルヲ以テ豫審判事ニ於テ免訴ノ言渡
シアリタルニ因リ獄司之レヲ放監候処
該犯タルニ罪俱登者ニシテ即時放ツ
可カラサル者ナリ然レリ右ニ對シ單ニ
初登執行セラレタル令状(收監收)ノミ
ニテ更ニ餘罪ノ為ノ令状(收監勾留)林
ノミニ更ニ送達之レヤリ依テ獄司
ニ於テハ審理上ノ如何其免訴ニ係ル事
件ニアワテモ先登後登ノ境ヲ詳悉セサ
ルヨリ亡論免訴セラレタルハ放監ス
可キ者ト認メ終ニ解放シタルノ右々
國ラサルモ余罪ノ為ノ全ク放ツ可カ
ラサルコト覺知スト金片素ヨリ獄

司ニシテ再ヒ之レヲ監禁スル能ハサルヤレ
ハ斯ク本犯ノ如キ單ニ初登執行セラル
タル義ト思考ス果シテ然ラハ前記
令状ノ効力ハ式ニ違フヨリ消滅セシ
トスルモ未タ監禁ノ身ヲ免カレサル
ノ犯者ニ付迅速右事實ヲ詳明シ其
地ノ檢事若クハ豫審判事ニ告登致
シ可然哉

指令

第一条 一罪ノ為ノシテ令状ノ効
力ハ餘罪ニ及ホスヲ得ス但起訴ニ係ラ
サル餘罪ヲ認知シタル場合ニ於テハ治罪
法九十六条ニ依リ告登スヘシ

亦二条 前条同一ノ犯罪ニシテ既ニ令状

取監取又ハ勾留 執行セラレ以来餘罪ノ發ス

ルアツテ更ニ之レニ對スルノ令状送達ア

リ右審理中依令ハ一罪豫審終結シテ

管轄輕罪裁判所ニ移サレタルノ旨ケ若

干日ヲ過キ今又一罪ニ於ケル審理上罪ト

ナラサルヲ以テ免訴セラル然ルニ獄司其

俱發罪アルコトヲ覺知セサルヨリ終ニ

誤テ之レヲ解放スト由モ曩ニ管轄裁

判所ニ移サレタル一罪ニ對シ執行ア

リタル令状ノ効力ニアツテハ依然消滅

セサルカ如シ果シテ然ルハ前記獄司

ノ失誤ヨリ放ケタルノ犯者ナレハ速ニ

其事實ヲ具シ豫審判事又ハ該掛ノ判

官ニ通報致シ置キ而シテ右解放セ

シ犯人ハ獄署ヨリ召喚シ若シ居住ニ立

歸ラス之レカ所在ヲ失フハ更ニ其地ノ

檢事ニ告發シ逮捕ノ手續ヲ求メ可

然義ニ候哉

指令

亦二条 誤テ解放シタルハ速ニ召喚シ

若シ逃亡シタルハ檢事ニ通知シ処分ヲ

求ムヘシ

新潟縣 十五年五月十九日請訓
全 年六月一日内訓

司法警察官ニ於テ告訴告發ヲ受ケ

及職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ

現行犯アルコトヲ知り又ハ之レヲ受取
タルハノ年続其他豫審判事ニ属
スル假処分等ハ治罪法中明文アリ
ト虽モ非現行ノ罪犯アルコトヲ自カ
ラ風評等ニ依リ聞知シソルハ取
扱ノ明文ナキヲ以テ聊カ疑義ヲ
生シ候条左ノ二条何分ノ仰御内
訓候也

第一条司法警察官ニ於テ犯罪
ル事ヲ自カラ聞知（告訴告発及ヒ現行犯
ニテラス）
シソルハ則ケ搜索ニ着手シ果シ
テ相違ナキコトヲ証明スルニ足ルノ
探緒ヲ得ハ一件毎類ヲ檢事ニ送

致シ可然哉

第二条司法警察官ハ檢事ノ指揮
ヲ受ケサレハ直ニ搜索スルヲ得サルハ
治罪法ノ原則ナルヲ以テ前条ノ
如キモ速カニ檢事ハ告発スルハキ
義ナル哉果シ然ラハ治罪法ヲ九
十六条ニ拠リ可然哉

内訓

第一条ノ見解ノ通

新潟縣十五年五月廿六日付
全 年六月廿五日付

治罪法ヲ九十六条官吏其職務ヲ
行フニ因リ云々告発ハ官吏ノ署名
捺印シソル云々トアリ然ルニ酒造

及煙草印紙貼用方等検査ノ如キ
事務取扱ノ都合ニ依リ縣郡區廳
ノ雇^{御用掛ニ非}命ニテ右検査員
ニ當テシテ而シテ其職務ヲ行ニ際
シ犯罪アル^ハヲ認知シテハ素
ヨリ其職務ヲ取扱ハシムルハ當然
ナリトス然ル処九年才十四号公達各
廳雇御用掛等ノ者犯罪処分ニ付
単ニ雇ノ名称ニテハ官吏ニ準シ不取
扱然テ本籍ヲ以テ処分可致云々
トアリ由是其理ヲ推窮スルハ右公
達ハ當人ノ犯罪処分ニ止ルト由
抑亦治罪法九十六条ノ明文官吏ノ

署名捺印云々ニ對シ些カ嫌ナキ能ハス
果シテ然レハ則某官名ヲ書載セザル
ハ論ヲ待ツスト由モ其職務上ハ該
廳長官ノ命令ヲ以テスレハ即チ某
雇ニシテ官ノ職務ヲ行フモノニ付真
本人ヨリ告発為致可然義ト存候得
共明例無之ニ付相伺候条至急御指
揮相成度候也

右審案候處雇員ニシテ官吏ノ名ナシ
ト由モ検査ノ職務ヲ為ス者ハ本人ヨリ
直ニ告発セシム可キ義ト考量候因テ
左ノ通

指令

伺ノ趣本人ヨリ在キニ署名捺印シテ告
登致ヤセ可然義ト心得ハシ

申知島輕罪裁判所檢事十五年五月二十三日付
全年六月八日付

第一条 茲ニ官林ヲ盜伐セシマリ明治

十四年五月中ニ係ル右官林ハ不明ノ原

アルニ付警察署ニ於テ大ニ其係リ官ハ

向合ノ上本年五月ニ至リ行政警察

官ヨリ被告人ヲ指名シ檢事ハ告登

セリ相尋テ該伐採ノ官本ヲ取調中

警察官ヨリ預ケラレタル戸長カ滿

一ケ年経過シ濕地ノ為ニ腐朽スルニ

付処分ヲ檢事ハ伺出タリ然ルニ檢事

ハ未タ起訴ニモ到ラサルモノナレハ素

ヨリ之ヲ処分

処分トハ該伐採ノ贓物即チ犯罪証品ト
シテ引揚ケ事件結了ノ上処置シ又ハ便
宜官林支配ノ地方官ハ引渡シ又ハ公賣ニテ代價ヲ地方
官ハ引渡ス等ノ処分ヲ謂フ

ス可キ者ニ非ストハ恩料候得共已ニ官

林ヲリト定ムルニ於テハ指令ノ被告人ハ

或ハ人違モアルハレト虫モ犯罪事件

ノ登覺ハ着明ナレハ官林ノ支配ヲナス

地方官ハ引渡シ不苦候哉若クハ被

告事件結了スル迄ハ其係差置リモ

不苦候哉果シテ然ラハ腐朽用ニ耐

ハサルニ至ル如キハ治罪法要償ノ訴

ニ付別ニ官民ノ区別ナキ限リハ一般ニ

適用ニ地方官要償ノ訴ヲナスニ任スル

義ト心得可然哉

指令

伺ノ趣左ノ通心得ハシ

亦一条 犯罪捜査ニ必要ナラサル者

ハ行政上ノ処分ニ付スルモノトス

亦二条 前条ノ如キ事件ヲ裁判スルニ

依採シタル贓物犯人ノ午ニ在ル時ハ刑法

第四十一条ニヨリ裁判官直ニ被害者ニ還

付スヘク若シ差押ヘタルニ於テハ治罪

法第三百八条ニヨリ被害者ハ還付スル

ノ言渡ヲ為ス可シ此言渡リ執行セシム

ハ検事ニ於テ其預リ人ニ指揮スルモノ

ト心得可然哉

指令

伺ノ趣左ノ通

亦二条 還付ノ処分ハ裁判所ノ言渡ニ

從ヒ検事ニ於テ之ヲ為スヘキモノトス但

伺面刑法第四十一条トアルハ亦四十八条

ノ誤ナレハシ

禁錮以上ノ又席裁
判所ニ係リタル者ト
認知スルモ治罪法
第九十七條ニ依リ
相當官吏ニ告
発スルニ止リ逮
捕スルヲ得ス

違警罪ニ常人
ニ於テ告発スル
ノ限ニテアラズ

青森縣十四年十一月廿二日
同年十二月十三日付

禁錮以上ノ刑ニ又席裁判

第九十七條 何人ニ限ラ

ニ係リタル被告人ニシテ刑ノ執行ヲ免レニ為メ捕

ス重罪輕罪アルヲ認

ニ就カサル時安寧上一般危懼ヲ懷ク儀ニ付如此

知シ又ハ重罪輕罪アリ

者ハ又席裁判ニ係リタル旨認知スルハ何人ニ係

ト思料シタル時ハ第九

ハラス捕逮シ又ハ相當官吏ニ告発スルヲ得ル乎

十四條第九十五條ノ規

指令 治罪法第九十七條ニ依相當官吏ニ告発ス

則ニ從ヒ其所在ノ地若

ルヲ得ルモ逮捕スルヲ得ス

クハ犯罪ノ地ノ豫審判

京都府十四年十二月廿二日同
同年同月廿八日付

事檢察又ハ司法警察官

発スルヲ得ル明文無之候處右ハ違警罪ニ限り告

ニ告発スルヲ得

発ヲ許サレサル法理モ無之様存候間假令

告発ヲ受ケタル官吏ハ

明文ナキモ違警罪裁判所ノ檢察官又ハ司

第九十三條ノ規則ニ從

法警察官ニ向ヒ告発スルヲ得ル儀ト相

ヒ其實分ヲ為ス可シ

心得可然哉 指令 同ノ趣違警罪ハ常人

告訴及ヒ告發

第九十七條

司法官

告發人ニハ請取証書ヲ渡スニ及ハス

第九十六條ノ場合ヲ除クノ外違警罪ノ告發ハ受理スルニ及ハス

告訴ヲ受ケタル官吏ヨリ其証書ヲ渡ス

ニ於テ告發スルノ限ニアリスト心得ヘシ

大坂府 十四年十二月廿六日付 告發人ニモ告訴

ト同シク請取証書ヲ渡スヘキ哉 指令 告

發人ニハ請取証書ヲ渡スニ及ハス 電報

大坂府 十四年十二月廿六日付 違警罪ノ告發ヲ

受理スヘキ哉 指令 治罪法第九十六條ノ

場合ヲ除クノ外違警罪ノ告發ハ受理スル

ニ及ハサル儀ト心得ヘシ 電報

熊谷裁判所檢事 十四年十二月廿三日付 告訴人

ニハ告訴ヲ受ケタルノ證書ヲ渡スヘキハ勿

論ニ候處右ハ檢事ノ署名捺印シタル証ヲ與

フヘキヤ又ハ檢事豫審判事ニ為シタル別ナク

書記ヨリ受領証ヲ與ヘ可然哉 指令 告訴ヲ受

ケタル官吏ヨリ其証書ヲ渡スヘシ

群馬縣 十四年十二月八日付 郡長戸長ニ於テ現行

犯ヲ逮捕又ハ受取ルニ當リ猶豫ニ難キ施政事

務アリ爲ニ被告人ノ假訊問及ヒ檢証處分等後

事ニ能ハサルハ警官吏ヘ囑託シテ不苦哉 指令

伺ノ趣不得止事故アル中ハ囑託スルモ苦シカラス

滋賀縣 警察部 十四年十一月廿一日 覽向

第六條 治罪法第九十七條ニ重輕

罪ノ告發ノ一アレヒ違警罪ノ告

發ノ一ナシ違警罪ハ告發ヲ許サ

ルモノカ又ハ告發スルモノアレハ重

輕罪ト同シヨリ其犯罪ヲ搜查シ處

命スルカ

郡長ニ於テ現行犯ヲ逮捕又ハ受取ルニ當リ止ラザルハ事故アリ被告人ノ假訊問及ヒ檢証處分等後事ニ能ハサルハ警官吏ニ囑託スルモ苦シカラス

回答

第六條 違警罪、告発ハ治罪法
第九十七條ニハ含まる者トス

滋賀縣 十四年十二月廿六日付
十五年一月十四日付

従前罪囚逃走ノ節ハ明治七年御省
第三十一号御達ニ依リ死以上ニ該
者及ヒ事重大ニ涉ル者ハ具杖ニ
一般ハ御布達ヲ請ヒ懲役終身以
下ニ該ル者ハ本縣ヨリ直ニ各府
縣ハ申達ニ其旨御届致来候处来
ル十五年一月一日以後罪囚逃走候
節ハ治罪法ニ依リ検事ハ告発
スルニ止リ別ニ御省ハ御届ニ不及

儀ト相心得可然哉

右審按候处罪囚逃走ノ節ハ治罪
法ニ依リ検事ニ告発ニ其告発ニ
受ケタル検事ハ別紙参照ノ布達
ニ依リ処分スヘキ者ト考量ス依
テ左ノ通

指令

伺ノ通

但告発ヲ受ケタル検事ハ十四年
当省丙才二十号達ニ依リ処分

スヘキモノトス

中村始審裁判所検事

十五年二月十一日
同
全
年三月九日
同
答

第四條 治罪法第九十七條云々其所

在ノ地云々トアリ其所在ノ地トハ犯人
所在ノ地ヲ指シテモノコト告発者
ノ所在ノ地ニ無之ト解シ可然哉

回答

亦四条告発者所在ノ地ナリトス

長寄縣

十五年三月十四日
全月廿九日
電報

懲役終身ノ囚新法實施后逃走シ若
クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅
迫ヲナシ其他重罪輕罪ヲ犯シテ
モノハ刑法ニ依リ相当処分セラレ仍
ホ監獄則チ百九条無期徒刑囚徒ノ例
ニ準シ処分スヘキモノト存シ檢事ハ告
発候処却下相成タリ右ノ如何取扱可

然哉

右ハ左ノ通御指令アリテ檢事ハ左ノ

通御達相成可然哉

指令

監部三十一号伺ノ趣檢事ハ起訴スヘ
キ旨達スルニ付更ニ同官ハ送致スヘシ
長寄始審裁判所檢事ハ達 十五年三月廿六日
長崎縣令内海忠勝ヨリ別紙ノ通伺出候
処右逃走ノ罪ハ刑法百四十二条ニ依リ其
他ノ重罪モ亦刑法ニ照シ教罪俱発例
ニ依リ裁判官ニ於テ刑ノ言渡ヲ為スヘキ
モノ候条其旨同縣令ハ相達置候付
告発及候ハ通常ノ規則ニ從ヒ起訴

ノ手續ヲ為スヘシ此旨相達候事

姫路始審裁判所檢事十五年三月十八日請訓
全 年 全 月 三 十 日 内 訓

刑法亦四百九条ニ掲クル失火犯罪アリ

其始末ヲ失火人及類焼人ヨリ層層ヲ

以警衛ヘ届出司法警察官ニ於テ犯

罪アリト見認メ告発ヲナシタル場合

ニ於テ檢事其始末書等ニ徴シ事實

相違ナシト認知シタルハ別段調査

ヲ作ラサレモ妨ナキカ若シ必ス調査

ヲ作ラントセハ其犯罪非現行ニ係ル

時ハ一々豫審ヲ請求セサル可キラス

然ルニ該犯罪ノ如キハ遠隔ノ村落

ニ多ク且ツ輕罪中ノ最モ輕微ナル

モノナルヲ以テ屢々被告人ヲ喚徴セス
別段調査ヲ要セスシテ治罪法ヲ
百七条ヲ二項ノ末文ニ依リ直ニ公判
ニ付シ可然哉

内訓

別紙請訓ノ趣ハ意見ノ通

岡山縣十五年五月一日付
全 年 全 月 十 九 日 付

家督相続ノ後六ヶ月ヲ過キ地券名義

書換願ヲ怠リタル者ハ明治十三年亦

五十六号公布ニ依リ処分スヘキハ必定

ノ処若シ其相続人十二歳未滿ノ幼者

ナル時ハ刑法亦七十九条明文ニ從ヒて

分ヲ要セサルモノトセハ告発スルニ

及ハサル乎

指令

亦一条 家督相続ノ後六ヶ月ヲ過キ
 地券書換セサル一ノ登頭シリル時ハ
 假令ヒ其相続人知者ナルモ申告ス
 ハキ義ト心得ヘシ
 前項相続人假令知者ナル時ト虫モ
 戸籍賤産ハ親族又ハ後見人ニ於テ兼
 テ管理スヘキ責アル者ニ付直ニ其責
 任者ヲ指名シテ告発スヘキ義乎又ハ
 犯則セル幼者ヲ告発シテ裁判言
 渡ノ日ニ當リ昨十四年卯七十三号
 公布ノ二項ヲ適用シテ可ナラン乎

指令

亦二条 前条ノ場合ニ於テ幼者ノ賤
 産ヲ公然管理スヘキ責アルモノ
 ハ直ニ其責任者ヲ告発スヘシ

告訴告發ハ部理代人ヲシテ之ヲ爲ス人ヨリ爲スモ妨ナシ

福井縣十四年十二月廿五日同
年十二月十三日付

治罪法第九十八條ニ告

第九十八條 告訴告發ハ

訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スヲ得ルト有之右

代人ニ委任シテ之ヲ爲

ハ部理代人ニ限ル者ニシテ總理代人ハ用フルヲ得サル

スヲ得但第九十六條

儀ト相心得可然哉將々單ニ代人トシ有之以上ハ部理

ノ場合ハ此限ニ在ラス

總理ノ區別ハ無之哉「指令」告訴告發ハ部理代人ヲ

無能力者ノ告訴ハ法律

シテ之ヲ爲サシム可シ但告訴ハ總理代人ヨリ之ヲ爲ス

ニ定メタル代人之ヲ爲

トアル可シ(理由)總理代人ニシテ告發スル場合ハ之レナキ者トス

スモ其效アリトス

甲村始審裁判所檢事

十五年二月十一日實向
 全十五年三月九日回答

十四年五月廿六日第七拾三号布告

刑五條 治罪法第九十八條刑二項ニ無

治罪法ニ於テ無能力者法

能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人

律ニ定メタル代人及ヒ民

之ヲ爲スモ其効アリトス

事擔当人ト稱スル者ハ左

ノ以テ見レハ無能力者ニ告訴ノ權

ノ通

ニハ許シタルモノ如シ何トナレハ代

無能力者

告訴及ヒ告發 第九十八條ノ一

同 法 八

人之ヲ為スモノ文意ヲル本人之ヲ
 為スヲ正則トセシモノト相見ハ原則
 之背キ独リ此条ノ設ケアル法理ヲ
 探ルニ由ナシ故ニ無能力者ハ一切
 自己ノ権利ヲ親ヲ行フ能ハサルノ
 原則ニ依リ法文ヲ翫味スルニ本
 條ハ専ラ告訴告登ハ代人ニ委任シ
 テナスヲ得ハキ義ヲ示シリルモノナ
 レハ亦二項ハ亦一項ノ文ヲ受ケ無能
 力者ノ告訴ハ臨時代人ニ委任シテ之
 ヲナスモ法律ニ定メタル代人之ヲ為
 スモ妨ケナキト云義ニ解釈シ可然
 哉

- 一未丁年者
- 二妻タル者
- 三白痴瘋癲人
- 四治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一未丁年者ノ父若クハ母
- 又ハ親屬後見人
- 二夫タル者
- 三白痴瘋癲人ノ保管者
- 四治産ノ禁ヲ受ケタル者
- ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一未丁年者ノ父若クハ母

回答

第五條 告訴ハ無能力者ト雖モ自
 ラ之ヲ為シ又ハ代人ニ委任シテ之ヲ
 為スヲ得

- 又ハ同居ノ親屬ニシテ監督
 ヲ為ス者
- 二夫タル者
- 三白痴瘋癲人ノ保管者
- 四雇主
- 但雇人其雇主ノ命シ
 タル事件ヲ行フ時

愛媛縣

十四年十二月廿六日付
十五年一月十九日付

第十五条 治罪法第九十九条ハ亦九

十六条ヲ包含セザル儀ニ有之候哉

若シ果シテ然ラハ官吏ノ告発ヲ

取消シ又ハ變更スルカ如キハ別段

制禁ノ正条ナキヲ以テ本条ニ

因ラスニテ之ヲ為スモ妨ケナ

キ義ト心得可然哉

指令

第十五条 亦九十九条ハ亦九十六

条ヲ包含スル者トス但シ官吏

ニ對シ要償ノ訴ヲ為スルコト得ル

白河輕罪裁判所判事

十五年二月十六日請訓
全 身三月八日内訓

告訴及ヒ告発 第九十九条

第九十九条 告訴告発ハ

其願下ヲ為シ又ハ其申

立ラ變更スルコト得此

場合ト雖モ第十六條ノ

規則ニ從ヒ被告人ヨリ

要償ノ訴ヲ受クルコトア

ル可シ

同 去 八

亦一条 豫審掛ニ於テ檢事ノ起訴ニ依リ
 告訴告発ニ係ル事件取調中告訴告
 発人ヨリ過失ニ因リ告訴告発ヲ為シ
 タルコトヲ詳明シ或ハ犯支等ニシテ其
 取下ヲ豫審掛ニ出願シシルハ檢事
 ハ出願ス可キ旨申用ケ願状差戻シ
 可然哉將テ豫審掛ニ於テ其願下ヲ聞
 届ケ直ケニ其旨檢事ハ通知シ訴訟
 昏類ヲ還付スル義ト相心得可然哉
 亦二条 亦一条前項ノ如ク告訴告発人
 ヨリ其取下ヲ檢事ニ出願シタル時ハ
 檢事ニ於テ之ヲ聞届ケ直ケニ其旨
 豫審掛ニ通知シ其通知ヲ受ケタル

豫審掛ニ於テ被告事件告訴告発人の
 過失ニ係リ他ニ有罪ト思料ス可キモノ
 無之或ハ犯支等ノ如キハ被告人ノ拘
 留若リハ保釋責付等ヲ取消スノ言
 渡ヲ為スニ止リ無論被告事件ニ對
 シ免訴ノ言渡ヲ為スモノニ非ラサル義
 乎若シ亦一条末項ノ場合ニ於テモ仍ホ
 前項ノ通相心得可然哉

内訓

治罪法亦九十九条告訴告発願下ノ件請訓ハ
 告訴告発人ヨリ其願下ヲ豫審判事ニ出願
 シ若クハ檢事ニ出願シ檢事ヨリ豫審判
 事ニ通知アリタルハ豫審判事ハ之

ノ申届リヘシト雖モ被告事件ニ付テハ
仍ホ相當ノ処分ヲ為スハ勿論ニ付犯罪
ノ証憑充分ナラス又ハ告訴ヲ待テ受
理スヘキ事件ニシテ棄権又ハ私知
ヲ為シタル場合等ニ於テハ免訴ノ言
渡リ為スヘシ

旧岡拓書記官

十五年二月十八日
全 年三月廿八日
同 答

才三条 非現行ノ告訴告発アリタルノ
后檢察官ニ於テ被告事件罪トナルハ
クト思料スルハ別段ト雖モ未タ罪ト
ナルヤ否搜查等ノ処分ヲナサズ只訴
状ノミ受ケテシテ際告訴告発人ヨリ願
下ヲ乞フルハ該件棄却スルモ差支

ナキヤ又ハ一旦昏類ヲ受テルヲ以テ願
下ヲ允許スルモ該件棄却スルノ限
ニアラサルヤ

回答

第三条 告訴ヲ待テ受理スヘキ事
件ヲ除ク外後段御見解ノ通

時ト其犯罪時日ニ限ラス例ハ八犯人昨日某家ヲ竊取セシラ今日事主其品ヲ携帶スルヲ着認メ之ヲ追呼スル等乃チ准現行犯ト爲スノ類

既決囚逃走其他犯罪捕獲方照會アル者ヲ見當リタル者百一節第一第二制限及ヒ十四年第四十六号布告ニ依リ其場合ニ應シテ處分ス

仙臺裁判所判事

十三年十二月十日請訓
十四年七月廿三日訓示

第一百一條中 重罪輕罪ニ付

時トアルモノハ犯罪ノ日時ニ限レルヤ或ハ犯罪後數日

ヲ過ル時ト魚尾追呼セララル、時贓物等ヲ携帶シタ

ル時及ヒ其處分ヲ求メタル時ハ准現行ト爲スヲ得

キ哉「訓示」時トアルハ其犯罪ノ時日ニ限ラス

例ハ昨日某家ニ入り物品ヲ盜ミ今日事主其盜

犯ノ贓品ヲ携帶シ行クヲ着認メ之ヲ追呼スル

等乃チ准現行ト爲スノ類ノ如シ

愛媛縣 十五年一月十日同 一月一日以前各府縣ヨリ

懲役人逃走其他犯罪捕獲方照會アル者見當

リタル節現行犯ノ手續ニ從フ可キ哉「指令」懲

役人逃走其他犯罪捕獲方照會アル者ヲ見當

リタル中ハ治罪法第百一條第一第二ノ制限及ヒ十

キ左ノ場合ハ現行犯ニ准マ

一犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セララル、

二兇器贓物其他犯人ト

思料ス可キ物件ヲ携帶シタル時

三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ

又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲

四年第四十六号布告ニ依リ其場合ニ應シテ處
分ス可シ電報

メ戸主ヨリ官吏ニ其
處分ヲ求メタル時

十四年九月廿日第四十六号布告

治罪法第百一條ニ准現行
犯ノ場合列記有之候處其
舉動犯人ト思料スヘキ者
アル時ハ當分ノ内現行犯
ニ准シ處分スルヲ得

官吏職務外ト雖モ
成ルヘク犯罪ヲ發
覺スルニ注意ス

司法警察官巡查ハ
管轄地外ト雖モ公然
出張ヲ命セラレ同一
職務執行ノ場合ニ於
テハ違警罪現行犯
ハ其檢察官ニ告發
シ重罪ハ第百二條
前項ニ依リ處分ス

福井縣

十四年十一月廿五日同
同年十二月十三日付

治安判事ハ治罪法第六十
第百二條 司法警察官及

條第二項ニ依リ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘ
キ責任有之候處若シ茲ニ出退廳等ノ途上違警
罪ノ現行犯ヲ見認メタル中ハ登時職務ヲ行ハサル場
合ナルヲ以テ同法第百二條ニ依リ其裁判所檢察
官ニ告發スヘキノ限リニ無之儀ト相心得可然哉一指
令「官吏職務外ト雖モ成ルヘク犯罪ヲ發覺スル
ニ注意スヘシ

ト巡查其職務ヲ行フニ
當リ重罪輕罪ノ現行犯
アルヲ知リタル時ハ
令狀又ハ命令ヲ持タス
シテ被告人ヲ逮捕ス可
シ

茲ニ甲地違警罪裁判所管轄内ノ司法警察官
又ハ巡查ニ於テシ地違警罪裁判所ノ管轄内へ出
張中職務執行場合ニ當リ違警罪ノ現行犯アル
ヲ知リタル中ハ管轄外ニ係ルヲ以テ治罪法第百二條
ニ依リ其裁判所ノ檢察官ニ告發ス可キノ限リニ無之哉

違警罪ノ現行犯アルヲ
知リタル時ハ被告人
ノ氏名住所ヲ問ヒ之ヲ
違警罪裁判所檢察官ニ
告發ス可シ其氏名住所
分明ナラス又ハ逃亡ノ

現行犯罪

第百二條ノ一

司法警察官

司法警察官巡查ハ
令状ヲ待スルモ現行
犯ヲ捕縛スルモ苦シ
カラス

司法警察官職務
外トモ告訴告発ヲ
受ケ又ハ重罪輕罪ノ
現行犯アルヲ知リタル
中ハ成ルヘク相當ノ處
分ヲ爲ス

憲兵違警罪ノ現
行犯ヲ知リタル中
被告人ノ姓名住所分
明ナラス又ハ逃亡ノ
恐アル者ハ引致シテ
引渡ス

郡長戸長等ノ其役
場ニ於テ事務ヲ執
ル際重罪輕罪ノ現行
犯ヲ目撃シタル中ハ
部巡查ノ巡行中目撃
シタルト均シク逮捕セ
サルヲ得ス

果シテ然ラハ輕罪重罪ノ現行犯アルヲ知リタル中
モ亦前同様相心得可然哉「指令」管轄外ト雖
モ其地ノ警察官又ハ巡查員同一職務執行場合
ニ於テ違警罪現行犯アルヲ知リタル中ハ治罪法第百
二條ニ依リ其檢察官ニ告發シ其重罪輕罪ナル中ハ同
條前項ニ依リ處分スヘシ

茨城縣十四年十月十五日同上野
司法警察官巡查

ハ令状ヲ待タスモ現行犯ヲ捕縛スルモ不苦儀ト相
心得可然哉「指令」同一通

兵庫縣十四年十月八日同司法警察官告訴告發ヲ

受ケ又ハ現行ノ重罪輕罪アルヲ知リタル中犯所ニ臨
檢スル等皆公務ヲ行フ場合ノミヲ指ス儀ニ有之候
哉「指令」司法警察官職務外ト雖モ告訴

告發ヲ受ケ又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ知リタル中ハ
成ルヘク相當ノ處分ヲ爲スヲ要ス

陸軍憲兵中佐十五年一月四日同今般新法實施相

成候ニ付テハ憲兵ニテ違警罪ノ現行犯ヲ知リタル
中ハ治罪法第百二條第二項ニ依テ被告人ノ姓名住
所ヲ問ヒ而シテ憲兵條例第八條ニ照シ其姓名住所
ヲ以テ巡查ニ引渡候儀ト相心得可然哉「指令」

伺ノ通但被告人ノ姓名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ
恐アル者ハ引致シテ巡查ニ引渡ス儀ト心得ヘシ

千葉縣十四年十一月十日同治罪法第百二條ニ司

法警察官及ハ巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪輕
罪ノ現行犯アルヲ知リタル中ハ令状又ハ命令ヲ待タ
スシテ被告人ヲ逮捕スヘシト有之右其職務ヲ行フ

現行犯罪

第百二條ノ二

恐アル者ハ違警罪裁判
所ニ引致スルヲ得

ト郡長戸長ノ如キ獨リ司法警察職務ノミニ限
ラス本分ノ職務ヲ行フ場合ニ於ルモ含蓄致シ居
候儀ト相心得可然哉「指令」伺ノ通

其被告人ヲ受取リアル
司法警察官ハ逮捕及ヒ
告發ニ付テノ調査ヲ作
ル可レ

豫審判事檢事ハ第
百三條ニ含蓄セス

青森縣

十四年十一月一日同
同年十二月十二日付

本法第百三條 巡查被告人ヲ

第百三條

巡查被告人ヲ

逮捕シタル片ハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシト

逮捕シタル時ハ速ニ之

アリト檢事又ハ豫審判事ニ送致スルヲ得ルノ儀法章

ヲ司法警察官ニ引致ス

明示無之ト虽モ是等ハ巡查ノ便宜ニ依リ豫審判事又ハ

可シ

檢事ニ引致スルヲ得ルノ意モ含有スル儀ト可心得乎 指令

其被告人ヲ受取リタル

豫審判事檢事ハ治罪法第百三條ニ含蓄セス

司法警察官ハ逮捕及ヒ

告發ニ付テノ調書ヲ作

ル可シ

現行犯罪

第百三條

刑罰

刑罰

除ク他ノ司法警察官ニ引致スヘキ旨其向ハ諭達スルモ苦シカラス

戸長ノ如キハ役場ノ設モナク自宅ニ於テ事務取扱候向多分有之且罪犯取扱ニ付テハ孰レモ未熟ノ者ノミニ付實際之ヲシテ他ノ司法警察官同様事務為取扱候ハ實際行ハレ難キ事情モ有之ニ付警部ノ在ラサル地ノ戸長ニ於テ現行罪犯ヲ逮捕シ又ハ他ノ逮捕シタル現行罪犯ヲ受取タル片ハ所管警察署ヘ送付シ訊問檢証等ノ處分ヲ囑託スルヲ得ヘシ又巡查現行罪犯ヲ逮捕シタル片ハ成ルヘク戸長ヲ除ク他ノ司法警察官ヘ引致スヘキ旨兼テ其向々ハ相違置候テモ別段御差支ノ慮ハ無之候哉「指令」伺趣其向ハ諭達スルモ苦シカラス

茨城縣十四年十二月廿二日伺治罪法第四百條ニ司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル片ハ假ニ被告人ノ

賭博犯其他輕罪ニシテ犯罪明確ナルモノハ檢証處分ヲ要セス

訊問及ヒ檢証處分ヲ為スヘシトマリ其重罪ナルト輕罪ナルトヲ問ハス此手續ニ從ハサルヲ得サル者ト思考スルモ本縣ノ如キ一年間逮捕スル所ノ賭博犯殆ント三千人ニ近キ地ニ於テ一々犯所ニ臨檢スル片ハ數十名ノ警部ヲ増加セサルヲ得サルヲ以テ賭博犯其他輕罪ニシテ犯罪明確ナルモノハ檢証處分ヲ為サルモ妨ナキ儀ト心得可然哉「指令」伺趣檢証處分ヲ要セスト見込ムモノハ伺通

第一百五條 何人ニ限ラス

重罪輕罪ノ現行犯アル

場合ニ於テハ直ニ被

告人ヲ逮捕スルヲ得

重罪ノ現行犯ヲ
認ノ直ニ逮捕シ司
法警察官ニ引致シ
タル片或ハ司法警
察官及ヒ巡查逮捕
シタル片其被告
人軍人軍属ナル片ハ
檢事ニ送致シ檢事
相當ノ處分ヲ為ス

非現行犯ト雖モ捜査
ノ處分中檢事又ハ司
法警察官ヨリ報告
書ヲ以テ証人ヲ呼出
其供述ヲ聴ク一ラ
得被告入ト雖モ輕易
ナル事件ニ付テハ亦
同シ但其供述ヲ聴ク

横濱始審廳檢事

十四年十二月十六日同
年同月廿二日付

重罪輕罪

ノ現行犯ヲ認メ直ニ被告人ヲ逮捕シ司法警察官ニ
引致シタル片或ハ司法警察官及ヒ巡查逮捕シ
タル場合ニ於テ其被告人軍人軍属タル分明ナル
片ハ治罪法第二十九條ニ示シタル儀モ有之ニ付
檢事ヲ經由セス警察官ヨリ直ニ軍官ニ交付シ
可然哉或ハ檢事ニ送致シ檢事ハ治罪法第七
條第四項ニ照依シ處分スル儀ト心得可然哉指令
後段同ノ通

氷澤始審廳檢事

十四年十二月十六日同
十五年一月十日付

治罪法第

九十二條ノ規則ニ從ヒ現行犯ヲ除クノ外告訴
告發其他犯罪ヲ捜査スルニ諛リ不得止場合ニ
於テハ令狀外ノ呼出狀ヲ以テ被告人又ハ證人

ヲ為シタル者ニ對シ共
ニ官署ニ至ルヲ求ム
ルヲ得但逮捕ヲ為シタ
ル者ハ正當ノ事由アル
ニ非サレハ其求ヲ拒ム
ヲ得ス

第二章 起訴

第一節 檢察官ノ
起訴

第百七條 檢事犯罪ノ搜
査ヲ終リタル時ハ左ノ
手續ヲ為ス可シ
一重罪ト思料シタル事
件ニ付テハ豫審判事
ニ豫審ヲ求ム可シ

二輕罪ト思料シタル事
件ニ付テハ其輕重難
易ニ從ヒ豫審ヲ求メ
又ハ直チニ輕罪裁判

為メニ起訴ノ處分ヲ遅延スヘカラス

等ヲ召喚シ其陳述ヲ聞取可然哉「指令」伺ノ趣非現行犯トモ捜査ノ處分中檢事又ハ司法警察官ヨリ報告書ヲ以テ証人ヲ呼出し其供述ヲ聴ク一ヲ得サルニ非ス被告人ト虽モ輕易ナル事件ニ付テハ亦同シ但其供述ヲ聴ク為メ起訴ノ處分ヲ遅延スヘカラス

福島始審廳檢事十四年十月廿五日請訓所犯重罪十五年一月十三日訓示

ナルモ宥恕ニ依リ法章上輕罪トナル者刑法第八十條

第百八十一條等ハ輕罪裁判所へ公訴スル儀ト心得可然哉「訓示」重罪裁判所ニ公訴スルモノ

トス但特別ノ減輕ニ因リ重罪ヲ減シテ輕罪ニ降スヘキ場合ハ此限ニアラス

刑法第五條ニ依ルニ公布ニテ禁止セラルノ

公布ニ禁令アリテ罰則ナキ者起訴

ノ手續ヲ為スニ及ハス

所ニ其訴ヲ為ス可シ

三違警罪ト思料シタル

事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之

ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ

四被告人ノ身分犯罪ノ

種類又ハ場所ニ因リ

其管轄ニ屬セサル者

ト思料シタル事件ニ

付テハ之ヲ管轄裁判

所檢察官ニ送致ス可

シ

ノ手續ヲ為スニ及ハス

ミニテ罰則ナキ者五年七月第九十七號公布ノ類ヲ云フ新法實施後

ハ起訴ノ手續ニ及ハサル儀ト心得可然哉「訓示」

其見解ノ通

静岡始審廳檢事十五年一月十九日請訓従前加等シテ

罪ヲ論スヘキ者再犯ノ時前科ヲ包藏シ初犯ト偽リ

一旦再犯ノ刑ヲ遁レ服役中前科アル一發覺シタル

片ハ本犯自首ノ否ニ拘ハラス更ニ加等ノ刑ヲ科シ候

儀ハ實際間々有之候処自今右等ノ者アリテ之ヲ新

法ニ照スニ正條ヲ見ス固ヨリ第百二條數罪俱發例ニ

依リ處断スヘキ者ニアラサレハ第二條ノ明文ニ從ヒ初

犯トシテ受ケタル裁判確定後ハ不問ニ置クヘキカ曩

ニ受ケタル前科ハ消滅ノ限ニアラス加之再犯加重シテ

罪惡ヲ懲戒スル法律ノ精神ニモ悖ル一ニ付不問ニ

前科ヲ包藏シ初犯ノ刑ヲ受ケタル者トモ其裁判確定シタル上ハ處断スル一ヲ得サルニ付其刑ノ適用ヲ求ムルニ及ハス

檢察官ノ起訴 第百七條ノ二

刑法